

We

女と男の家庭科新時代

「インタビュー」
「スローワーク」を創り出す
―「福祉コンビニ」のコンセプトは
家族を開く

二神 能基さん

ワーク／ライフバランス
を考える
パク・ジヨアン・スツクチャ



特集

「働き方」の発想を 変える

6

2001

■月刊『くらしと教育をつなぐ We』 年間10冊 (送料込み) 7,500円

■『居場所考◇家族のゆくえ』 水田宗子著 1,800円

家族がゆらいでいる今、私たちはどこに向かうのか? 映画や小説を題材に、女性の、そして男性のさまざまな「居場所」を探る、日本のフェミニズム批評の第一人者による珠玉のエッセイ集。

■『Working With Women 性暴力被害者支援のためのガイドブック』
フェミニストセラピー研究会編 1,260円

レイプなど性暴力の被害に遭った女性を支援するための方法を詳しく説明した手引書。被害者を「助けてあげる」のではなく「自己決定をサポートする」ための具体的な方法が示されている。

■『セックスするなら眠りたい』 ピピコクラブ編 950円

「ママ、僕はどこから生まれてきたの?」子供の問いをきっかけに、子育て中の女性たちが「性について本音で語り合おう」と始めた回覧ノート。真剣だが明るくさわやかな女性たちの「本音集」。

■『わがままな女は幸せになれる Let's 自己表現・自己主張トレーニング』 河村ふみ著 1,050円

自分の気持ちを素直に表現し、人とのよい関係を創っていくにはどうしたらいいのか。誰にでも思いあたる身近な出来事を例に「自己表現トレーニング」をやさしく紹介します。

(価格はすべて税込み)

フェミニストカウンセリング講座

毎週火曜日10:30~12:30 (週1回・全40回) ◎定員=8名

● AT (自己尊重・自己主張トレーニング) 7月3日 (火) スタート!
毎週 (全10回) 受講料 32,000円

● セクハラ相談員養成講座 10月16日 (火) ~ (全20回)

受講料 20回一括64,000円 (分納の場合33,000円×2回)

セクハラ相談員になるための講座です。対象者はCR、ATの体験者、今までフェミックスのカウンセリング講座を受けたことのある人、及び相談の経験のある人に限ります。

● 通信制「自己主張トレーニング (AT) 講座」

言いたいことが言えなくてイライラしたり、自分を責めていませんか?

表現したいけれどできないでいること、苦手な分野を発見して、日常生活の中で実際に課題を実践し、その報告を手紙ですという形式をとります。

◎受講料全12回35,000円 (1年間/12回)

● 自己主張トレーニング (AT) の個人教授始めます。

ATに興味があるのに時間や場所の関係でグループワークが受講できない方のために、個人教授始めます。面談でも、電話でもOKです。お問い合わせ下さい。

講座の
ご案内

詳細はお問い合わせください。

Femix

フェミックス

◎お問い合わせ・お申し込みは下記までどうぞ。

TEL/FAX 03-3424-3603

E-mail femix@mail2.alpha-net.ne.jp

ホームページ: <http://www3.alpha-net.ne.jp/users/femix>

東京都世田谷区池尻3-2-3-703 (〒154-0001)

郵便振替 00130-7-754314 富士銀行池尻大橋支店 1501277

東急新玉川線 (渋谷より1駅3分) 池尻大橋駅下車西口より徒歩1分

◎フェミックスは出版とフェミニストセラピーによるカウンセリングを事業の両輪としてしています。遠方の方、外出が難しい方のために電話カウンセリングを行っています。

☎ 0990-511320

特集 「働き方」の発想を変える

【インタビュー】 二神 能基さん

2

「スローク」を創り出す —「福祉コンビニ」のコンセプトは 家族を開く

(聞き手・まとめ 稲邑 恭子)

ワーク／ライフバランスを考える

—仕事と私生活の「バランス」という視点が働き方を変える

パク・ジョアン・スックチャ 16

■女と男の家庭科新時代

新・オホーツクの潮風荒く	江口凡太郎 25
食の歳時記 第23回 たかがコロケされどコロケ	入江 一恵 26
熊本発・困ったときの一発ネタ ピーカー炊飯実験—炊飯器の中のドラマ	片山富美子 28
曲がり角の家庭科⑧ 家庭科教育の幻想(2)	梶原 公子 30

■連載

女が歳をとるとということ 第53回	木村 栄 36
ジェンダーフリー大曼陀羅図鑑 第23回	鳶森 樹 37
家事神話 女性の貧困のかげにあるもの 第21回 「嫁」の契約書(中)	竹信三恵子 38
新米議員のジェンダー議事録 第11回 党を変色させた小泉首相、本当は何色?	木村 民子 42
乱読大魔王日記 第23回	冠野 文 44
ひげのおばさん 子育て日記 第13回 料理当番	中畝常雄・治子 46
過去を振り返らない／先を考えない 第12回 おべんとう 考察	松本 一郎 48
英語で女性問題を語るための ワンポイント・レッスン 第3回	吉原 令子 50
3年1組の12ヶ月 第3回	来 陽子 52
終幕 第19回 アジアを着る…その5	水田 宗子 57

●Weフォーラム2001 in Tokyo へのお誘い 60

●読者のひろば 62

●編集後記 63

表紙・イラスト 川口民子

■特集 「働き方」の発想を変える

□インタビュー

□聞き手・まとめ 稲邑

恭子

「スローワーク」を創り出す

「福祉コンビニ」の

コンセプトは「家族を開く」

二神 能基さん



ふたがみ・のうき 1943年、韓国太田市生まれ。早稲田大学政治経済学部卒。引きこもりや、目標喪失の若者の再出発を応援するNPO法人「ニュースタート事務局」代表。

東西線行徳駅（千葉県）からのんびり歩いて一二、三分。「福祉コンビニ」というのほり旗が目印の、大通りに面した日当たりの良い全面ガラス張りの店舗。「ここは何だろう?」と通りがかりに思わず覗きたくさせる。

なかに入ると、明るい広々とした空間。元レンタルビデオショップだったという約二三〇㎡のそこには、風呂や調理室があり、テーブルを中心に、ソファや高齢者用ベッド、ベビーベッドなどが無造作に置かれ、隅にはこたつを置いた畳のくつろぎスペースも。数人のお年寄りがリラックスした表情で若者と世間話をしている。「デイサービスに行くと、遊戯やゲームをさせられるので嫌だ」と家を出なかつた男性が、ここには若者たちと将棋をするのを楽しみに通つてくるといふ。そのテーブルのまわりをおんぶひもで赤ちゃんをおんぶした青年がゆらゆらのんびり歩いている。ゆつくりと時間が流れる別世界。忙しくてテンションが高くなつていた私も、なかに入つてしばらくすると、体が一気に緩んで欠伸が出て眠くなってくる。いい（気）が流れる空間。

ここで働くのは専門のヘルパーや保育士の人たちと違って不登校や引きこもりを体験した若者たち。「福祉コンビニ」は、高齢者のデイケアサービスと託児所、何でもお手伝い屋の3つの機能を持つ。

「福祉コンビニ」を運営するNPO法人「ニュースタート事務局」代表の二神能基さんにはじめて会ったのは、『We』を創刊して二年目の九三年頃。当時間借りしていた「共学舎」（横浜市青葉区）の事務所に、故家坂哲男さんがつくった新しい大学「共学舎」の資料を見せてほしいと訪ねて来られたのが縁である。イタリアに引きこもりの若者たちを送り込むプロジェクトの構想を温めていた頃で、アナーキーな発想が面白くて、『We』（九五年四月号）にイタリアで行った「タヴォリーノ・ニュースタート・プロジェクト」のことを書いてもらった。

その後、里親を見つけて下宿させる「人間下宿」プロジェクトや、愛媛県の有機みかん農園「無茶茶園」での労働体験など、アメーバ的・多層的に活動を広げ、次々と若者たちの受け入れ場所を開拓。

そして、「メンタル・フレンド（心の友）」というものは派遣できるようなものではないと考え、あえて謙虚に「レンタルお姉さん」「レンタルお兄さん」と名づけた若者たちを養成、家庭に派遣して、引きこもりの若者たちを家から連れだす事業を始める（週一度の来訪で三ヵ月で半数以上、半年で9割の若者に会えるという）。

三年目を迎え、約二五名の若者が訪問活動でフル回転しているが、それでも派遣希望に応じられない状況で、

今月からは、全国からの派遣希望にこたえて、大型キャンピングカーで全国を巡回する計画がスタートするという。

引きこもりから外に出るようになった若者たちの中には行徳や船橋にある元社員寮の共同生活の場で生活するようになる人もいる。元気になったのちも、そのままスタッフになって残る人たちもいて、どこからどこまでがスタッフなのかはつきりしない。レンタルお兄さんが出陣のときに「見習い」がぞろぞろついていたりする。

千葉県内に五ヵ所あるこの「若衆宿」のような寮では、週に一回ずつ、夜、外部の人たちが参加できる「鍋の日」があつて、ボランティアをやりたいおじさんやおばさんが出入りして鍋を囲んで歓談する。

急増する「不登校大学生」や二十代無職の問題に切り込み、「社会に役立つやりがい」を求めるといまの日本社会では食べていけないという若者のジレンマに焦点を合わせたアプローチが若い記者たちの関心を引いて、新聞やテレビでも、その活動が何度も取り上げられるようになって久しい。

時々かかる電話やFAXでは、キューバに若者を送り込むプロジェクトをやるから仕掛け人になれる人材はいないかと、独身寮を借り切るから何かに使ってみないかと、経過報告とともに突拍子もない話が降ってきて、

話半分に聞いていたが、「一度のぞいてみないか」と言われて、ずっと興味はあったものの忙しさにかまけてなかなか訪ねることができなかった。ようやく「福祉コンビ二」を訪ねてみたのが三月末のこと。猫が昼寝するような（地域の縁側）という言葉がびつたりこの空間の空気を吸って、「負けたな」と思った。

日本の親が子どもに言い続けて子どもを追いつめるという典型的な三つの殺し文句、「目的を見つけない」「自立しなさい」「他人に迷惑かけるな」。このマインドコントロールを解くために、二神さんがあえて口にするのは、「もたれあって無目的にだから生きていこう」であり、「マザコンこそ日本男児の生きる道」である。（稲邑）

塾経営から隠居人へ

稲邑 そういえば、はじめてお会いしたときいただいた名刺に「隠居人」とありましたね。

二神 そう、三五歳から「隠居人」をやってましてね。高校時代、一年間白紙答案を出し続けて退学処分になったのに、校長が退学者が出るたびに、「あいつのところは相談行け」と寄越すようになった。それで、一八歳からなんとなくおかしな子どもばかり集めてわいわい遊びな

がらやっているうちに塾になり、二二歳で経営者になったけど、塾を経営しているというイメージはなくてね。一九六五年頃は、松山市で塾をやっているのは傷痍軍人が多かったから、少し元気な若い者が塾をやると、みんな成功した、そんな時代だったんですよ。別にポリシーもなく、やる気もなく、わいわいやっているうちに、いつの間にやら急成長して進学成績を競うような進学塾になった。一九七三年当時は生徒が三千人いましたね。

稲邑 軌道に乗ってしまったので、面白くなくなってやめたのですか？

二神 それが一番わかりやすい言い方なのだけど、それ以上に、なんとなく面白くなくてね、シラけて酒ばかり飲んでいて、それで、後輩に任せることにしてやめました。その塾はそれからまた大きくなって、一万二千人規模になって、寺小屋という、愛媛県で一番大きい塾になっています。

稲邑 塾の経営をやめて、三五歳からは何を？

二神 それが、そのときの思いつきでいろいろやっていたので、あまり覚えていない。中年フリーターでろくなことはやってこなかった。表面的には無駄な時間でしたが、引きこもってみたり、外国を飛び回ってみたり、貴重なフリータイムだったと思うね。

フレアイ村構想

……国を頼らず、家族を頼らず、カネを頼らず

稲邑 「フレアイ村構想」というのは？

二神 シニアプラン開発機構が論文を募集したときに、優秀論文の中に入ったんです。「フレアイ村構想」という、ひらがなで書くのと恥ずかしいのでカタカナにしたけど、それでも耐えられないような名称です。ただ、「国を頼らず、家族を頼らず、カネを頼らず」という老後を考えようと思いませんか。

NPO関係の人たちと集まると、行政が助成しないので運営が難しいとか、すぐ、そういう話になるんですが「最初から行政頼りだとおかしいんじゃないの、そんなことより、とりあえず自分たちがどこまでやるのかという話をしましょう」と言いたくなるので、どうも意見が合わない部分がある。それが僕の言う「国を頼らず」です。

「家族を頼らず」については、家族が閉じていて介護などでお嫁さんだけに負担がかかるのはおかしい、「あそこの嫁さんはよくやる」みたいな話になると、のっけから「違うだろう！」という気がしていましたね。子育ても介護も「家族を開く」、家族で抱え込まないで、他者の力を

借りることが大切だと思う。

「カネを頼らず」は日本銀行券を信用しないということですが。年金制度を含めて日本銀行券体制はもうすぐ崩壊すると見ていますから。

「フレアイ村構想」を考えていたのが、九一年か九二年の話で、それでどういう老後を作るか仲間内でわいわい酒呑んでやっていたら、九三年にNHKのドキュメンタリー「イタリア 愛の四大家族」が放映され、宮川さん夫妻とブリケッタ農園のことが紹介された。それを見て、これは、われわれがやりたいことを先にやっているやつがいると、イタリアに行ったんです。

タボリーノロベシヤート（イタリア語で「ひっくり返したテーブル」というお城が活動の拠点で、宮川さんは自動車のデザインの仕事をやめて、第二の人生に入っていて、有機農法でぶどうやオリーブを栽培する農園の中に塀のない少年院があり、アル中の人たちを農夫として使う、民宿もあって、農業・教育・福祉という、総合的な場をつくっていた。それが自分が「フレアイ村構想」で描いたイメージと重なってね、それで、九四年から六年間で八回、引きこもりの若者たちを送り出しましたね。農園の四大家族が解散して宮川ファミリーだけになり余裕がなくなっただけでもあって、今はそのプロジェクトは休

止していただきます。

イタリアから学んだこと

二神 イタリアから学んだことは多かったです。イタリアはスペシャルスクールも老人ホームも精神病院も廃止してしまいました。目的別の施設を充実させて収容所列島みたいになっている日本とは逆の方向ですね。

それは何なのだろうと考えて見て分かったことは、イタリア人は神様以外の人間はみんな障害者と考えているということ。人間はみんな障害者だが、その障害がそれぞれ違うから、みんな助け合えるし、助け合って生きていく必要があるのだという考えに立っているということ。いろいろな障害の人が地域のなかで混じり合って、もたれ合って生きていけばいいということですね。ですから、「ノーマライゼーション」という考え方は、「ノーマル」があるということですから、差別を助長しているのではないかと感じています。

日本はまだ「障害を克服して」みたいなしんどさが残っていて、その点イタリアは、障害はそのままでもいいじゃないかという感じで楽ですね。ですから、若者たちには、「人間はみんな障害者なんだから自立なんてできない

い、みんなでもたれあつて生きていこう」と常々言っています。

日本の若者たちは日々「自立」を脅迫されていますから、それを聞いてホッとするようですね。人間は「自立」には一番向いていない動物だと思っています。

イタリアプロジェクトの残した宿題

稲邑 それをやっているうちに、次の課題が出てきたということですか？

二神 まあ、そうですね、というより、日本に帰ってきて、若者たちをどう「着地」させるかが宿題になったわけで、未だにその宿題をやっているようなものです。

最初は安直にもとのレールに戻すことを考えていた。学校に戻すとか、あるいは日本の企業に勤められるようにするとかというような、ノーマライゼーションの部分でやっていた。戻すのは間違いじゃないかと言う人もいたりして、頭の中ではいろいろ考えてはいたんですが、そのところが曖昧なまま来て、やはり空転しましたね。

稲邑 空転したというのは？

二神 やはり「戻す」というのを考えないほうが良かったね。というのは、こちらの指導力が弱くて、本人や

親の意思を尊重すると、彼らは戻りたいと言っただけです。それを応援してやるう、本人の自主性尊重ということであれわれが逃げた。それがまずかったなど。それで、一時的に元気になって、とりあえずは戻りますがね、三カ月、半年、一年すると、また落ち込んで、結局やめちゃいました、ということになるケースが圧倒的に多かったですね。

彼らに不足しているのは、社会体験、労働体験、人間体験なんですね。今まで会ってきた百人を超える不登校大学生の多くは、学歴エリートで、「目的なき上昇志向」に縛られて、上ばかり見てあせっては、自分より下だと思ふものをバカにする傾向が見られた。そういう若者たちに必要なのは「ただの人」として生きる楽しさを味わってもらふことなんですね。

稲邑 それで「無茶茶園」などの国内の働き場所を探すとということを始められた。

二神 そうです。「自前でつくらないかん」ということにすぐにはならないで、われわれがあつてほしいと思うような職場を見つけて、そこに送りこもうと。「無茶茶園」だけでなく、いろんなところを探しましたね。

それなりに良かったなという思いと、期待はずれだった部分とあります。誰が悪いということではないんだけ

れど、行った若者と受け入れ先との思いのずれがあり、これはもう、学校以外の学びの場、会社以外の働きの場を自分でつくらないかんと思ひ始めたのは、三年くらい前からですね。

それで、若者と話していると、福祉関係に興味のある子が多かったので、介護保険が「家族を開く」という考え方と重なったので、とりあえず入り口として、ヘルパー養成講座を始めました。

ヘルパー養成講座の開始

二神 現実に始めたのは九九年の一二月。それを思いついたヒントは、それ以前に他のところでホームヘルパー養成講座を受けている子が多かったこと、そしてまた、最後までやれていない、途中で挫折している若者が多かったということでした。

稲邑 それはどうして？

二神 実習ですね。特別養護老人ホームとかの現場を見て失望するんですよ。「役に立ちたい」という気持ちを持っていたのに、自分が思っていたのと全然違う。すぐやめたがる連中だから理屈をつけているんだらうとは思いますが、だけど、何はともあれ、「彼らはヘルパー養

成講座を受けようとしたんだな」と思った。

若者たちと話していると、彼らの「役立ちたい願望」を感じるんです。自分の存在を確認するのに、自分を発見したいとか、自分の内側に向かっていくと、もう空転してしまうわけ。そうでなく、他者との関わりの中で、自分が何か役立つところで自分を実感できる、というのがある。それで、とりあえずはヘルパー養成講座を始めました。

講師の人たちが、他のところで会う受講生と、うちの子たちは全然違うと言うんです。わからないところはわからないと言うし、学校の優等生のようにわかったふりをしないから、とてもいい、面白いヘルパーに育つ可能性が強いんじゃないですか、と言われる。

それに、小中学校当時は不登校だった若者たちが、オバさんたちと一緒に嬉々として学びはじめたことには驚きました。学校についていけず、フリースクールにもついていけなかった子たちですよ。フリースクールみたいな学校もどきではなく、もっと違う学びの場が必要なんだと痛感させられました。

企業戦略に合わせて提案する

稲邑 場所はどのように確保されたのでしょうか？

二神 一昨年（九九年）の十月に浦安駅前の社員寮を借りましてね、それまでは交渉に入ると全部断られています。法人格はないし、若者を集めるといって、お引きとり願いたいということになる。ダイニチという不動産会社と関係が深くなり、そこがとりあえず小さなところからやってみますか、ということでした。ダイニチは若者向けのワンルームマンションを扱うことが多い不動産会社ですが、その市場はもう終わりが近い、次はシニアに行かざるを得ないと四、五年前から考えていたようですが、見当がつきにくいので、リサーチする意味で、「ニュースタート」はいわば実験部隊。だから企業の好意によってというのではなく、利害が一致したのです。

NPO法人として、企業戦略にきちっと合わせたところでこちらから企画・提案し、合意が成立したということです。まわりから、「関係をあまり深めるとむずかしくなるのでは」とアドバイスされました、そういう危険はありますよ、でも何かやってみるときの危険というのは今までも常にあったわけだから。だから企業との関係にしても、メセナ（社会貢献）みたいな、社会的使命を果たすべきだという言い方で企業をまわるのはちよ



つとおかしいんじゃないかと思ってるんですよ。企業の戦略に沿いつつもこちらに引きずり込んでいく、そういう戦略がないといかんだろうと。

これからの福祉は、行政と企業とNPOのトライアングル共同体が担うと考えています。そしてミッシヨン・ベンチャーとしてのNPOが新しい提案をして、行政と企業とうまく結びつけていく必要があると思っています。

他の会社でも、リゾートホテルの稼働率が一五%で、閉める前に若者の教育の場に使ってみますか、と言ってくるのがある。今はそういうのが結構多いです。

稲 稲 そういう意味では、時期からいうと狙い目？

二 二 神 そうです。そこで資本主義的な説得をしてやっていけば、乗ってくるころはあると見ていますがね。

イタリアなどは不動産の相続税がない。町並みを維持しなければならぬ、改造はできないわけで、相続すると大変だからみんな相続したがる。だから相続するとかえって助成金がつくんです。日本もそのうち不動産はマイナスの資産に転化してくると思います。だから今は無所有経営がいい。

ここは昨年十一月にオープンして、七カ月目。最初の月は赤字が四〇〇万円くらいかな。先月が二〇〇万。今月が一五〇万、急速に赤字が減っています。今年の十一

月頃までには、一〇〇万を切るのではないか。赤字というと聞いた人は心配してくれませんが、日本銀行券における採算性は大した根拠はないと思っています。例えば、銀行というのは、日本銀行券の採算性を非常に厳密に言ってきた組織、その組織がこの不採算のていたらくですからね。

稲邑 「地域通貨」を使うということですか。それはどういう形で？

二神 例えば、高齢者のほうは介護保険なので利用料金が決まっているけど、託児所は高い料金を設定している。NPOなのにどこよりも高いと言われました。NPOは安いと思われるんですけどね、でも、どのくらい費用が必要かと計算すると、そのくらい要るんです。その料金はきちんと出すべきだし、それを補う方法として「地域通貨」のような形も考ええる。例えば、子どもを一カ月預かって保育料が一五万円だとして、それを家庭では払えない。その場合、お母さんが暇なときここに来て介護を手伝うというかたちで、日本銀行券の支払いを「地域通貨」のような形で代用できる、というふうにするればいいじゃないですか、ということをやっている。

日本銀行券だけで考えるのはおかしい

二神 僕は朝鮮からの引揚げ者で、難民としていきなり四国の中の山の中に帰った。あの田舎の、お国が崩壊して保険制度も何もないところで、お年寄りと壮年と子どもとが、互いに補い合い、ごく自然に助け合っとうまくやってきた。要するに、ああいうふうにすればいいんだというのが根底の社会体験としてある。

介護保険に対する批判をマスコミの人に聞かれるが、そういうことには関心ないんです。とりあえずステツプとしてああいうものが出て来る必然性はわかるし、お国がつくる制度なんかもととできそこないに決まっている、隣近所で穴ぼこを互いに埋め合わせ合えばなんとかなる、と思っっている。国の制度に頼るのは難民の性格に合わないんです。

日本銀行券の採算性ばかり聞かれるけど、それに重きを置く必要はない、「お金はなんとかなるよ。あと百億円借りてみせるから、それでお前たち遊べ、やれることやってみる」と若者たちに言っっている。心配する必要はない。日本銀行券体制は間違いなく崩壊する、と。

稲邑 借り倒すんですか？

二神 そうそう。向こうが倒れるまで辛抱すれば一〇〇分の一くらいは支払ですむようになる。中高年は二神の冗談だと思っているようですが、若者たちはボンヤリと日本銀行券体制の崩壊を感じているようです。僕らの時は年金もらえないとかね。そのくらいお金が信用できなくなつた時代なんですよ。

いま何か新しいことをやろうとすると、目先の採算なんか合いませんよ。「地域通貨」とか人間のつながりとか、総合的な大きな採算を考える。日本銀行券だけの採算を突出して考えるというのは、二〇世紀日本の悪い習慣、もうそんなのいいんじゃないの。赤字といえはあらゆる部門が赤字だけど、寄付も集まっているし、足りない分はいろんな企業から先行投資としての低利息で借りています。採算を度外視してやるべきことをまっすぐにやるだけ。そうすれば道は自動的に開けるんだなあ、今、実感しています。

ここを利用してしている人たちや寮に住んでいる人たちの利用料についても、払える人からはちゃんといただいています。お金のない人からはそれなりに、払えない人はタダで置いている人もいます。ただ、僕はいつも思うんだけど、払いたいけど払えないというのはしょうがないけどね、お金があるのに払うお金は少ないほうがいい

と思つている人の子どもは絶対に預からない。帰つていただきます。かなりお金持ちでもそういう人は多い。貧乏になるほうが身体にも心にもいいのにな。それがわからない人とは一緒にやれませんが。

ブラックボックスと暴君が必要

稲邑 それは二神さんがブラックボックスになつて全部決めていくということですね。

二神 ひとりそういう暴君がいなくてこういう創造的なNPOは育たない。三〇代の優秀な連中がシンクタンクになってくれていますが、彼らが一番困つているのが「民主的に決める」というやつで、そうしていると、変な人が何人か入つてくると、かき回されるんです。全体の中で望ましくない人は、向こうがどんなに正しい理屈を言つても叩き出す、ということがないと組織が育たない。NPOだからみんなで民主的に、という何事も決まらない。「うちの考えには合わないから他の所でやつてくれ。二度と来ないでくれ」というような冷たいことを誰か暴君が言わないと。

稲邑 そうですね、誰か悪役になれる人がいないと。

二神 もつとも、「ニュースタート」がファッショナルな

組織とは誰も思っていないようですが（笑）。俺が悪役は引き受けるから、後は自由にやれと。それはある種、彼らにとつて楽だと思えますよ。給料もプロの人は雇用としてきちんと決めているが、若者の給与についても全部ブラックボックスです。

稲邑 それで不満が出ない？

二神 働きに応じて分配する能力主義でなく、必要に応じて分配するという原則でやっていますから。

けれど全般的に、いまの若者は金銭に関する不満は非常に少ないですよ。うちなんかで生活しているとあまりお金が要らないですから。三食昼寝つきでみんなでわいわいやっているから、外に遊びに行かなくても中で遊べる。貧乏を楽しめるんです。

流れのない「たまり場」はつくらない

二神 お金は重要でない。それよりも、ここを「たまり場」にしてはいけない、ということによりエネルギーを使います。

僕は松戸の「フレンドスペース」に対して高い評価をしてましたから、イタリアの連中に見てもらいたくて連れて行ったのだけど、彼らは「ああいうものをつくって

はいかん、〈たまり場〉ではつくっても意味がない」と言っただけです。閉じてしまふ、流れていないとだめだと。

浦安や行徳の場所ももう少し早くつくりたかったが、イタリアからストッブがかかっていたんです。僕はそういう意識がなくて、癒しの場じゃないけど、どこか「たまり場」があつて、そこで安心するというのもいいじゃないかという感じがあつた。でも、イタリアの連中に行われてみて、最近の日本の施設を見て、やっぱり流れをあまり意識していないなと思う。

稲邑 みんな優しくすぎるから、癒しの場をつくると、澁んでしまふ。

二神 優しいリーダーが多いしね。

稲邑 でも、常に外に開いて、流れていけないといけないというのは、場をつくるときにすごい重要なことですよね。

二神 働く場をつくって、流れが澁まないようにするのに知恵を使わないといけない。

次に何をするかということプロジェクトチームをつくつていきます。そういうふうにも動かしにくいといけない、それに一番エネルギー使う。泊まり込み四〇人、通っているのが三〇〜五〇人。それだけいると、かなり意識的にならないと澁みます。

遅くても十一月には、グループホームとデイサービスとショートステイの混合施設を開く予定です。これになにか新しいものをくつつけないと、と思っている。他でもやっているようなこととか、高齢者だけ集めるというのはやりたくない。五人とか七人とか里子を預かるグループホームのようなものも考えている。子育て長屋とか、何かいろいろな年齢層、いろいろな障害者が交流できるような複合施設がいい。そこにもたれ合い構造をつくっていく。

不動産は余っていますから、不動産会社とお互いにメリットのある合意のありようが見つかる、その意味ではおもしろい時代です。

稲邑 でも、金を借りる能力がないとできない。

二神 それは、お金はNPOとして借りているんですが、相手は二神に貸している。つまり株式会社の社長を説得できる力量を持たないといけない。そのときに甘えない、きちんと戦略を話す。こちらのビジョンを具体的に町内の的に明確に話し、最終的な自分の責任の覚悟を見せる必要があると思う。最後のところで、こいつはほんとに腹をくくって借りに来ているかというところを相手は見ますから。そこらへんは市民団体系の人は中途半端で逃げ腰の人が多いですから。

稲邑 デイズニールランドの近くの二〇〇室という大きな独身寮を使うという話がありましたね。

二神 いろいろ考えたんですがね、結局、シニア用の施設をベースにしたやつにしようかなと思っている。例えば、その中にシェルター（緊急避難施設）をもちこむプランは出てくる。その場合も福祉サービシ的に安く置いてあげるというのではなくて、グループホームを手伝ってください、そうしたらただで置きますよ、というもたれ合いが成り立つようなものを自然につくっていかないと、社会の進歩につながらない。

稲邑 それだけ大きな施設だと、安全とプライバシーの確保が何より大切になるシェルターとしての利用は無理だと思いますが、自立するまでの中間施設としてだったら可能なのでは？

二神 いま千葉県の精神衛生福祉センターと喧嘩しているんですが、公的な機関からの紹介は一切受け付けない、資料請求も送らないという路線でやっています。

というのは、あたかもお客さんを紹介してあげるみたいな感じで、仕事体験をうちでできないかと人を寄越してくる。紹介された人もその前はほとんど「ただ」でしょう、そこから紹介されたというのでお墨付きをもらっている気である人が多い。紹介するのなら税金をつけて

こいと言いたい。

稲邑 それは要するに行政で対応しきれない人をまわしてやるということですよね。

二神 そうです。だから、公的な機関との関係は明確に「一線を引くべきです。船橋の教育委員会が「資料請求もだめですか」と聞いてくる。「船橋の寮のことがテレビに出ると、どこに聞いていいかわからないから市役所に問い合わせが来る。おたくのこと聞かれて困るんだ」と言うが、そんなこと、僕は知らん。

国への陳情の問題もありますが、お国に何もかもお願いするのはもう終わりにしようよ、と言いたいです。現状の政治家を見ればアテにならないのはよく分かるじゃないですか。民主主義なんだから国民が自分で解決の道を探るべきです。これからは行政がNPOを助成するのではなく、NPOが行政を助成するのだと。

市川市も浦安市も高齢化が急速に進んで、民間が相当がんばって、もうちょっとコストの低い能率的な新しいシステムを立ち上げないと持たない。

例えば、引きこもりの対策でも、東京都の職員研修で話したんですが、うちなんか寮に預かるときに、「お宅にいるのとうちに來るとでは、自殺の確率が一〇〇倍になりますよ。だから責任とれない、それが心配なら連れ

て帰ってください」と申し上げる。「いままで、たまたま自殺は起きなかったが、それは偶然にすぎない。今年は一、二人死ぬんじゃないですか」と言う。そんなことは行政だと言えない。だから、引きこもりの問題は、ほんとうは行政が扱える問題ではないんじゃないか、というふうにお話ししたんです。

引きこもりや家庭内暴力の問題は、行政はあまり踏み込めない。また、お国がそんな家庭の問題にまで踏み込むとまたおかしなことになる。ですから、これは民間がやるべき分野です。そうすると、民間がどれだけ工夫して低コストでやれるか、家庭の状況にどのくらいに対応できるか。そうなると、うちみたいに料金が全部ブラックボックスになるし、それが一番公平ということになる(笑)。

みんなで貧しくなりあおう

二神 若者たちに、「おまえたちの欲しいものは何か」と聞くと、「根性」とか「身長」とか言うんです。僕らの世代とは違って物欲がない。そういう意味では、ああ、いい世の中になったなと思う。彼らはどこか、「自分は何かに役立てている」とか、「誰かにふれあえて嬉しい」み

たいな、そういう部分を求めている。そうになると、そんなにががつ働く必要はない。物理的にも親が作った家もあるわけだし。われわれの世代であれば住宅ローンがあると年間いくらか稼がなければ払えないというのあったけど、そういう大きな支出がなければ、年俸三〇〇万そこそこでやっていける。結婚するんであればふたりで六〇〇万になる。雇用機会均等法でないけど、女を男に合わせたのがまずかったと思うんですよ。男の労働時間と給料を下げた方が良かった。

同級生を見ても、男はいわゆる経済的なものをみんな背負わざるをえなくて、損したなと思いますよ。彼らの中学生の頃を考えると、僕より遙かに優秀で面白かったやつらがつまらない男になったなと思う。日本の会社に三〇年勤めたら、会社人間になって人生を楽しむ能力を喪失してしまっている。男優位の社会は別に男を幸せにしていない、男がそんなに働かないでいいように女の人にも背負ってもらって、所得対等でいいじゃん、というところにおろさない。女は女で、学校時代よくできた子だった人はみんな屈折している。私は能力を生かせなかった、みたいだね。これはいびつな構造です。

ただし、中高年の男は自分が不幸であったという自覚はあまりないし、自分から優位な部分を捨てないんじや

ないかと思うから、若い人と女性が手をつないでひっくり返さない。国民みんな三〇〇万円くらいの所得で、労働時間を減らして楽しくやればいい。「みんなが豊かになろう」と思うからしんどいので、「みんなが貧しくなりあおう」と思えば、楽になるし、やさしい社会ができていくと思いますよ。うちはその方向で行きます。

ここの連中も福祉の現場に実習に行つて、介護の現場まで効率を持ち込んでいるのに出会つて、ほとほといやになっていく。お前たちはやりたいたいのんびりやれ、と言つているから、これから自前の職場をつくつていかなければならない。外に出すということが難しいんですよ。どこも採算性と効率ですからね。

うちの若者たちの優しさがお年寄りに評判になつていくらしいんです。本来優しいということもあるが、お年寄りには多分若者に触れていないから知らない、その過大評価があるなとは思いつつも、「福祉コンビニ」のような場をつくれば、若者たちは、自然に「ゆつたりとしたやさしさ」という才能を発揮するんだという確信を深めましたね。

「スローワーク」を提唱したいんですよ。のんびんだらだらと楽しく働こう、とね。

ワーク／ライフバランスを考える

——仕事と私生活の「バランス」という視点が働き方を変える

パク・ジョアン・スツクチャ
(Joanna Sook Ja Park)

「ワーク／ライフバランス」とは何が

この一〇年あまりで、米国企業の人事制度や企業文化は大きく変わった。現在の米国の好景気に大いに寄与したと思われるそれらの変化の一因として、「ワーク／ライフバランス」という新しいコンセプトが企業の人事制度やプログラムに導入され、企業文化を大きく変えていったことがあげられるだろう。

ワーク／ライフバランスとは、「個人の能力を最大限に発揮させ、やりがいのある仕事と充実した私生活とのバランスをとる」という考え方である。

ワーク／ライフの取り組みは一九八〇年代後半から

徐々に広がり、一九九四年頃から、ワーク／ライフプログラムを導入する企業が急増し、独立した部署や専属のスタッフを置く企業も増えた。また、多くの大学もワーク／ライフオフィスを設置し、大学に勤務する職員や学生が、仕事、学業と私生活の健康的なバランスが保てるようにサポートしている。また、それが導入された後の、有能な人材の確保、勤務実績や生産性の向上、社員のモラルアップなどについてのさまざまな統計は、その効果を裏づけている。

二〇〇〇年六月に出版された「ハーバードビジネスレビュー」が、ワーク／ライフバランスを特集したことも、アメリカのワーク／ライフバランスについての関心の深

さを表しているといえよう。

ワーク／ライフバランスの目的

米国では、八〇年代に多くの母親が職場に進出し、九〇年代にはその数は急増している。最近の調査によると、父親が一人で働いて家族を養い、専業主婦の母親が家事育児を担うという家庭は全世帯の一〇%以下にすぎず、既婚勤労者の七八%は共働きである。一歳以上の子どもがいる女性の七三%が仕事を持ち、そのうち過半数がフルタイムであり、勤労者の二〇%はシングルペアレントであるという。生活水準が上がリ、共働きでなければ望む生活レベルが保てないことや雇用への不安から、中流家庭のほとんどが共働きであるという。

ワーク／ライフバランスのプログラムは、当初は、前述のような変化に対応して、母親が仕事と家庭を両立させて働けるように、保育サービスを提供することから始まった。しかしその後、人々は、働く人すべてにとって仕事と私生活のバランスをとることは重要であることに気づき、やりがいのある仕事と充実した私生活を実現できるように企業に求めはじめた。

ここ数年間に米国で各種団体がまとめた社会の幸福度

に関する調査では、人々はいずれも「裕福になったが不満は増した」という結論を出している。人々は仕事だけではなく人生を楽しみたいと願うようになった。意味のある充実した人生を過ごすことは、物質的に満たされた近代社会に生きている多くの人の目標となり、親の時代にはほとんど必要としなかった知識、スキルや思考法が必要となっている。ワーク／ライフバランスの取り方はその中のひとつであるといえる。

ワーク／ライフバランスの現状

ワーク／ライフバランスに関する制度やプログラムは、その後、家事代行や介護に関する金銭面や情報面での援助、私的雑用のサポート、長期休暇、心と身体の健康を促進する充実したヘルスクラブ、さまざまな企業内カウンセリング、大学や生涯教育への授業料の負担、ワーク／ライフセミナー、フレックスワークトレーニングなどと拡大していった。

現在は、社員が私的な用事や心配ごとから解放されて仕事に集中できる環境をつくるため、必要な時に私的な用事に対応することができるようなもの——例えば、車の修理、ランドリー、テイクアウト食品の調達など——

にも及んでおり、企業内にコンビニエンスストアをおいているところも増えてきている。

また、休暇制度なども、自分の望むように取りやすい方向に移っている。歯科、医療、生命保険等が個人のライフスタイルに合わせて選べる「カフェテリアスタイル」になり、休暇制度も、病気や有給などの理由によって区別せず、ひとまとめにする方向である。

また、プログラムや制度があっても、その実現をサポートする企業文化がない限り現実的なものとはならないが、『Fortune』誌での「100 Best Companies to Work for in America」の中で、トップ二五社のうち、二二社はワーク／ライフトレーニングをマネージャーに対して行っている。

企業がワーク／ライフバランスに取り組む理由

米国の一〇年近い調査データに基づいてまとめられた、企業がワーク／ライフバランスに取り組む理由は左記の通りである。

①優秀な人材の採用と確保

情報化社会では、優秀な人材の確保は企業にとって死活問題になる。採用に際してはもろろんのこと、一度採

用して教育した彼らが辞めないように会社に引きつけるために、仕事と私生活のバランスがとれるかどうかは重要な要素になっている。

②生産性の向上、欠勤、退職率の低下、コスト削減

最近調査した企業の半数以上で、ワーク／ライフバランスが生産性を向上させ、欠勤率を低下させたという。

家庭の心配ごとをしなくていい人は仕事に集中できるし、子どもや老人が急に病気になった時にでも、フレックスタイムなどの柔軟な雇用形態があれば会社を休まなくていいので欠勤が減る。

また、退職率が減ると、新しい人を雇う広告、採用、トレーニング費を削減できる。

③業績向上

二〇〇〇年の調査で、雑誌『Fortune』の「100 Best Companies to Work for in America」に掲載されている企業は、業績が平均より高いというデータが出ている。

④貢献度 (Commitment) の向上

企業が雇用や賃金の大幅な上昇を確保できなくなったいま、どのようにして社員の貢献を得ることができるのか？ 貢献 (Commitment) とは、社員が質の高い仕事をしようとする努力や、より効率をよくする仕事のアイデアを考えて実行していくことなどをさすが、アヴェ

ンティス製薬の調査では、会社がワーク／ライフバランスに努力していると認識している社員の貢献度は、そうでない社員に比べて二〇%以上も高かった。

他にもさまざまな調査結果がワーク／ライフバランスと社員の貢献度の相関関係を実証しているが、会社が社員が大切にしていることを重視しサポートしていると社員が感じた時に貢献度が高まることや、若い世代にとっては家族がキャリアやお金以上に大切なものであるということなども述べられている。

⑤ 社員の満足度とモラルアップ

ウィルソンラーニングが九四年に二万五千人の社員を対象に行った調査では、業績と生産性を上げるために一番重要な要素は、社員の満足度とモラルを高めることであるという結果が出た。いくつかの企業は社員の満足度とモラルアップがワーク／ライフを取り入れる唯一の理由と語っているほどである。

⑥ 医療費の削減

九一年に、職場でのストレスと医療費の関係を結びつける初めての調査結果が出た。その後さまざまな調査が行われたが、九七年にはデューク大学メディカルセンターが、職場のストレスが鬱状態、不安、怒りを増長させ、さまざまな健康問題に影響を及ぼすと結論づけた。

ワーク／ライフバランスを積極的に取り入れている企業の社員は、職場でのストレスが少なく、不安も怒りも少ないといわれているので、企業の医療費を大幅に下げることになる。

ワーク／ライフバランスを実現するために

企業文化を変えるには、まず、働き方を変えなくてはいけない。

ワーク／ライフバランスを具体化した働き方のキーワードのひとつは「フレキシビリティ（柔軟性）」である。柔軟な勤務形態の選択は、個人の私的な事情や一番生産性の高い時間と場所を認めることにより、社員にとってベストな状況で働ける環境を与え、その結果、仕事の生産性と社員の満足度を高め、またそれにより企業の業績は向上し、顧客サービスも良くなった。

革新的な企業は、柔軟な勤務形態の調整だけではなく、プロジェクトベースの仕事を増やし、結果を重視し、いつ、どこで仕事を行うかは個人に任せるようになりつつある。

生産性の高い時間帯や場所が個人によって違うので、九時から五時、会社に限る必要はない。社員にどのよう

な結果を求めるのかを明確にして、仕事をする時間や場所、方法は個人にゆだねることが望ましい。それによって社員は各自の創造性を使いながら効果的に働き、自分の能力をフルに発揮できるので、よりよい業績を出すことが可能になる。

例えば通勤時間が片道一時間半や二時間かかるようでは、朝、会社に着いた時には疲れてしまう。週に一度でも、パソコンやFAX、電話を活用することによって、自宅やサテライトオフィスで仕事ができるのであれば、肉体的、精神的によりよい状況で働くことができるし、通勤にかけていた三〜四時間は、勉強をしたり、余暇を楽しんだり、家族と過ごす時間等として有効に使うことができるので、双方によい結果をもたらす。

また、長時間労働はワーク／ライフバランスの最大の敵であるといえる。もしも労働時間と仕事の業績に相関関係があるとするなら、日本は世界一の好景気国となっていたはずであるが、「労働時間の短縮を」と長年言われ続けながら、一向に短縮する気配が見えてこない。

確かに仕事のやり方を変えずに短時間労働にすれば、仕事が終わらず、企業の業績が低下することは避けられないだろう。また、IT技術の発展は、一日二四時間、人々がいつどこでも仕事に応じなければならぬ状態

を作り出し、仕事と私生活の区切りを限りなく曖昧なものにさせている。顧客の要求度も高くなってきているため、社会情勢の変化に追いつくための勉強も必要になる。これらの事情は米国も同様で、長時間労働のプレッシャーを与え、実際に多くの専門職の労働時間は延びている。

そこで、ワーク／ライフバランスの専門家は発想を変え、「どのように仕事のやり方を変えれば、今まで通り、またはそれ以上の仕事の結果が出せ、同時に私生活も充実させる時間が持てるか」との問いを立て、「WORK-REDESIGN（仕事の再設計）」によって解決策を見い出していった。

仕事のやり方を見直すことは、これまでも「リエンジニアリング」という名のもとで行われていたが、ワーク／ライフバランスの視点からの取り組みは、会社側だけのメリットのためではなく、企業と社員の双方が恩恵を受けることを目標としたことに意義がある。

最近の風潮として、どの会社で働くか、どのような仕事につくかの選択は、「どうしたらワーク／ライフバランスがとれるか」ということが重要な要素となってきたことは見逃せない。ただ、どのようにバランスを取るかは個人人の価値観にかかわることなので、雇用者側としては社員が求めるバランスが取れるために必要な時間

と柔軟性を与え、それをどのように使うかは社員にゆだねることがベストであろう。

仕事の再設計

二一世紀に入り、米国の革新的な企業では、ワーク／ライフプログラムを見直しはじめ、より社員のニーズに見合ったものになるように改善している。また、多くの企業にとって、今後のワーク／ライフの焦点となるのは、さらに充実した「労働形態の柔軟化」と共に「仕事の再設計」だといわれている。

“Workforce”誌（一九九七年六月号）でバーバラ・ミラーは「仕事の再設計」に関する興味深い記事を書いている。その内容をかいつまんでご紹介したい。

九〇年代初頭に、フォード財団が三つの調査グループを厳選し、会社の制度とプログラムの枠組みを超えて、ワーク／ライフ（仕事と私生活両面）の充実を図ることを可能にするための方法を確立するという任務を委託した。調査に当たり、三企業でそれぞれ三年間仕事を進めた結果、会社規模の大小に関わらず、すべての企業における固有の企業文化、環境に適用できる

重要な研究成果を得たという。

まず第一に、企業がワーク／ライフの充実を求めるためには、福利厚生型のアプローチにとどまらず、系統だった企業文化の変革に焦点を絞って取り組む必要がある、それはまた企業と社員の双方にとってプラスになること。

また、企業は、その導入に際し、以下に述べるような二つの斬新な手段を採用しなければならない。

（ステップ1）次のような、仕事や理想的な社員像に関する従来からある**既成概念の見直し**

- ・ 仕事にかけた時間は、仕事に対する責任、生産性、および成果を示す指標である。
 - ・ 会議の出席回数は会社にとってのあなたの価値を反映するものである。
 - ・ 独身者の方が多くの時間を仕事にかけることができる。
 - ・ 正社員に比してパート従業員の仕事に対する責任感
は低い。
 - ・ 男性既婚者の妻の大半は専業主婦である。
- 調査によると、これらの既成概念はワーク／ライフバランスの統合を達成する上で逆効果となっているだけでなく、企業の事業目標の達成にも逆効果となっ

ている。

例えば、よく残業をし、週末も会社に出てくる人は、最も責任感が強くて生産的な人と見なされて、出世する。しかし突きつめると、この企業は仕事の成果ではなく時間に報いているのである。その結果、能率よく仕事をこなしたゆえに、妥当な時間に退社できる社員がその行動を評価されることはない。社員はすぐに能率が評価されることはないことを学び、そのため野心のある者なら誰でも、職場に長時間止まることが重要であると学んでしまう。時間が成功を計る基準となると、そのような基準が仕事の成果、質、生産性、あるいは能率性に報いることはやはり得ない。企業は、自らの望む目標の実現に対し逆効果となるシステムを作り上げてしまったのである。

変化の大半は上級管理者がひとつの展望を示し、行動でそれを支持していけば、その行動は徐々に企業全体に浸透していく。

このような戦略はワーク／ライフに関する企業文化の変革を成功させるためのカギとなるものであるが、これで十分なわけではない。上級管理者が雰囲気を作り出した後、社員各自が自身の既成概念を検討し、それが事業および個人の目標の達成に役立つか、またど

れが妨害するかを決定できるように、企業の全レベルで教育活動を実施していかねばならない。

この既成概念の見直しは、作業グループ単位で実施するのが最も効果的である。

〈ステップ2〉仕事のやり方の見直し

仕事のやり方の見直しは、ワーク／ライフのジレンマに対する新しい取り組みにおいて二番目に重要な要素である。

従来の既成概念と同様に、大半の人々は仕事を計画し、達成し、また組織化する習慣的な方法をすでに身につけている。しかしこれらの習慣が、事業あるいは個人的な目標を達成する上で最も効果的な方法とは限らない。ワーク／ライフの視点による仕事のやり方の見直しの過程で、マネージャーと社員が仕事のやり方の向上に対してより創造的かつ責任を感じるようになった。

例えば、各メンバーが見込み顧客に対する提案書を仕上げるために毎日のように徹夜している販売・マーケティングチームを例に挙げると、彼らのマネージャーおよび同僚は、徹夜してまで仕事をすることで示された彼らの責任感に対し、常々褒賞を与え、賞賛の言

業をかけてきた。しかし、徹夜による疲れがたまりその後の数日間は能率が上がらなかった。さらに、彼らの仕事の質は、午前三時では頭の働きの鈍り、創造力も発揮できなかっただろうという理由で、大目に見られていた。

彼らの仕事のやり方を見直した後、グループメンバー全員が、この種の慣習が個人の私生活はいうまでもなく、事業全体にとっても逆効果になっていることを明確に認識した。彼らは今後、お互いに徹夜したことで誉めることはしないという点で合意し、マネージャーも能率よくかつ質の高い仕事をしたことに対して報いるようになった。

ワーク／ライフを統合させる取り組みにおいて重要となるもうひとつの方法は、**周期的仕事の見直し**である。例えば、財務部を有する企業は作業スケジュールの見直しだけで利益を得ることができると。なぜなら、財務部の仕事は通常周期的で、スタッフは各四半期末に、報告書を納期まで仕上げるために平均十時間働くのに対し、四半期の始めの仕事は比較的少なく、上司もそれまでの超過勤務に対する報いとして、非公式に遅い出勤や早退、あるいは長い昼休みを許容していた。

ではこの周期を正式に組織化してはどうか？ 四半期最初の六週間を六時間シフトとし、最後の二週間で十時間シフトとする。このようなスケジュールによって、スタッフの仕事が少ない周期にはスキルアップのためのクラスを受講をしたり、医師や歯医者との予約を入れたり、ボランティア活動をしたり、子どもとの時間を持ったり、年老いた親の世話をするといったように計画を立てることが可能になる。

また、例えば、大半の仕事は各人に課せられた別個の課題から成っているが、これら別個の課題を見直して、それぞれの仕事に関連する**課題を再編成**してみることができると。このような再編成により、週に二〜三日、在宅勤務で仕事することも可能になる。家の静かな環境で仕事ははかどるだろうし、通勤時間を節約することでスタッフの個人的なニーズを満たす時間もできる。

Barbara Miller, President of Artemis Management Consulting "Workforce" 1997.6)

日本での課題

欧米やアジア諸国同様、日本でも共働き家庭が増えて

いる。仕事と家庭が両立できる環境を作ることが急務になつてはいるが、しかしそれは「女性が子どもを産んでも働きやすい環境」になることではなく、「父親が仕事と家庭の両立ができる環境」をを目指していかない限り、共働きにとつての働きやすい環境とはいえないし、少子化の歯止めにもならないであろう。

例えば、保育園が増えたとしても、仕事も家事も子育てもすべて妻がやらなくてはいけないというのであれば、「子育ては損だ」と多くの女性が感じ、ならば子どもは要らない、と思うことも女性の立場であればごく自然な成り行きであろう。

母親の社会進出をサポートし、少子化に歯止めをかけるためには、父親が仕事と家庭を両立できる環境づくりを目標に制度を作ればよいし、それに関する海外での成功例は数多くある。

日本の男性は夢がないとよく言われるが、もしも女性が子どもができて働き続けることができ、きちんとした生活費が稼げるのであれば、男性は収入が減ったとしても自分の本当にやりたい仕事を追求したり夢を持つことができる。女性も経済的に自立していれば、自分のお金で気兼ねなく、やりたいことができる。

母親が社会進出することによって、不足する労働力の

供給ができるし、父親一人で家族を養わなくてよいので、父親は物理的・精神的・経済負担が減り、家庭の収入も安定することになる。またそれによって、日本の中高年男性の高い自殺率も減るのではないだろうか。

パク・ジョアン・スックチャ (Joanna Suk Ja Park)
ワーク／ライフコンサルタント、有限会社アパシヨナータ代表取締役。日本生まれ、韓国籍。米国ペンシルバニア大学経済学部卒業。シカゴ大学MBA取得。米国と日本で米国系企業に5年間勤務後、韓国延世大学へ語学留学。日本に戻り、米国系運輸企業で日本、香港、シンガポール等、太平洋地区での人事、スペシャリストおよび管理職研修企画、実施を手がける。2000年2月に退社後、働く人がやりがいのある仕事と充実した私生活を持てるように企業での働く環境を変えていきたいと願い、2000年12月に有限会社アパシヨナータ設立。2歳と6歳の二児の母。

現在、(財)自由時間デザイン協会プロジェクトでワーク／ライフの調査レポートを作成中。企業の管理職向けにフレックスマーク導入方法を含めたフレキシビリティトレーニングや、企業がフレックスマークを適切に導入、管理できるように「フレックスマーク」のガイドラインを開発。また文中で紹介したバーバラ・ミラーの了解を得て、彼女が開発した管理職トレーニング「仕事の再設計」プログラムを、日本流にアレンジし、日本企業に提供できるように計画している。

新・オホーツクの潮風荒く

江口凡太郎

北海道滝上高等学校・家庭科

「悪いことほしないー車にひかれな
いー勉強をするー風邪をひかない！
そして、避妊することー以上」

前任校で女子クラス担任時代、週
末の帰りのホームルームで生徒に必
ず言っていた5箇条です。最初は
「悪いことだけは、しないように」の
1箇条からはじまり、だんだん増え
て5箇条になってしまいました。「学
校臭く」聞こえるかもしれないが、
昔流行ったテレビ番組『8時だよ全
員集合』のエンディングのようなも
のでした。「パバンパバンパバン、
歯みがけよー！」加藤茶氏がこんな感
じで言っていたのが懐かしいですが、

今なら「コム使えよー！」くらい毎週
言ってくれたら、いいのになあと思
うのは私くらいでしょうか？

学校がはじまって1週間、初めての
週末に、前任校での5箇条の話を
今のクラスにしました。そして別れ
際に言いました。

「悪いことほしない、車にひかれな
いの2箇条をまず、気をつけてくだ
さい。いずれは5箇条になりますか
……さよつならい」

「避妊」は生徒にじっくり説明が必
要なので、「いずれ授業でやりますの
で詳しくはその時に、でも必要ある
人は忘れずに」と付け加えました。

黄金週間前、中間テストが近づい
たので、「勉強」を加え3箇条にする
ことにしました。週末も3回目だっ
たので生徒に聞きました。

江「江口組、恒例の週末メッセージ。
忘れちゃならないのは何でしょ
う」

「悪いことほしないー！」

江「はい、その通り、もうひとつ」

「えー、事故に気をつける」

江「はい正解、特に車の事故。さあ、
大型5連休前に今週はもう一つ、
何でしょうー！」

「……」

すると元気のいい男子生徒が……

「わかった、避妊ー！」

「シーン」

このときのクラスの反応は、「えっ、
笑っていいの、いけないの？」とい
う感じで動揺した人が多く、すぐ
笑顔で反応した生徒は少ない状況で
した。

江「それも、大事です。でもその前
に、テストが近いからお勉強しま
しょう。それでは、連休明け朝8
時30分、全員揃ってここで元気に
お会いしましょう。さよつならい」
ご意見・ご感想お寄せください。

〒0940014 北海道紋別市緑町3丁目6-35
江口凡太郎

食の歳時記

入江一恵

たかがコロツケ
されどコロツケ

四月中旬、アメリカ東海岸ポストンに住む娘を訪ねた。着いた翌朝に雪が降るといふ変わりやすいお天気。木々はまだ芽吹きすら見せず寒さにふるえていた。それでも私は近くのスーパーに野菜を買いに出かけた。滞在中の食事づくりは、日本から持参した食材をメインに私の分担。それにしても無造作に盛りあげられたカラフルな野菜・果物売場を探索するのは好きだ。米も

十数種、ケースに入っていて好きなものを欲しい量だけ袋に入れて買うことができ、野菜感覚だ。トレーにパックされた野菜は見当たらない。品物の豊富さに農業国アメリカを見せつけられた思いがする。そこは日本というコープ。売り場面積の半分近くがオーガニック。左右に分けて並べてあるので値段も品質も両者を比較しやすい。娘のパートナーはMGS（グルタミン酸ナトリウム）に極端に敏感。ファーストフードの国で、だしもかつおぶしや昆布でとって冷蔵庫に保管するという懲り性、勿論オーガニック派である。

帰りに姪の住む西海岸パークレーに立寄った。実は三月に京都で開かれた「世界のジャポニカ米」のシンポジウムでカリフォルニア州都サクラメントを中心としたデルタ地帯の環境（土、水、空気など八項目）を徹底的にチェックしながらの稲作の報告をカリフォルニア州食糧・農業省ステイヴ氏より

聞いたばかりで、ぜひ現場の農場とその水路を見たいと思ったからであった。夜は一カ月前でないと予約がとれないというオーガニックレストランに案内してもらった。満員の盛況、さすが食材の旨味をひき出した味。それにしても彼女たちはオーガニックの表示を信頼している。そしてそれぞれの生活のなかに根をおろしている。

日本でも4月から有機農産物認証制度が有機農産物加工食品を含めて発足した。さかのぼると92年10月、農水省では、「有機農産物等に係る青果物等特別表示ガイドライン」を設け、97年さらに改正している。今回はJAS法改正に基づくもので、有機認定機関による第三者認証と罰則規定（50万円以下での罰金）をもったものとなっている。私たちは、今まで店頭に表示されている有機農産物に疑問と不安を感じ、信頼する産直、顔の見える関係にある田圃で栽培されたもののみ信頼してき

た。少なくとも私はその田圃に出かけて生産者と話し合ったりもした。ガイドラインという強制法でなかったせいも、それとも疑い深い習性なのか、オーガニックに対する娘と私の認識の温度差を強く感じた旅であった。

そこで、グリニックマン農務省長官が「世界でもっとも包括的できびしい基準」と自賛する米国連邦有機食品基準(2000・12)について調べてみた。十年來の懸案であった基準案が97年12月に提案され、アメリカ立法史上、最大という二七五、六〇三という意見を検討して作製、遺伝子組み換え、下水汚泥、放射線照射、さまざまな工業的農業の禁止、農薬、抗生物質、成長ホルモン、精製動物タンパク質、工場的な集約密閉式の畜産禁止、10年後にはアメリカ農業の30%を有機農業に変えることを目標に掲げている。現実には有機農家数は年率12%の割で伸びているという。結構づくめである。しかし、

日本で健康食品としてコマージュールに登場しているアメリカ産ブルーインにポストハーベスト農薬が検出されたり、ヨーロッパに輸出されたオーガニックトウモロコシ加工食品から水際で遺伝子組み換え産物の混入が発見され、廃棄されるなどのニュースに、不安は払拭されたわけではない。

初夏に向かって新じゃがいももだんだん大きくなっていく。今月はポストンで好評だったオーガニック馬鈴薯を使ったコロツケと娘の手抜き料理、お焼き風ハンバーグをお届けする(学生に涎をもよおさせた入江流究極のハンバーグはしばらくオアズケ)。

◎ブレインコロツケ

ビーフコロツケ、クリームコロツケ、冷凍ミニコロツケと巷に氾濫しているのにいままらという声が聞こえてきそう。しかし、上質のじゃがいもを選び、いつもの味を賞でるといふもの。バターと卵黄はかくし味程度に。

【材料】じゃがいも中10個、バター大1、卵黄2個、小麦粉、卵白、パン粉、塩、胡椒、揚げ油適量

【作り方】

- ①じゃがいもの皮をむき2〜3cmの輪切り、塩ひとつまみ入れてゆで、鍋底の水分は弱火にかけてとばす。
- ②裏ごし、あるいは金網ザルで熱いうちにこす(ポテトマッシュャーはダメ)。
- ③塩・胡椒・バター・卵黄をまぜて形を整え、小麦粉、うすめた卵白、パン粉をつけて揚げる。口の中でトロケそうな感触。

◎お焼き風ハンバーグ

【材料】牛ミンチ $\frac{2}{3}$ 豚ミンチ $\frac{1}{3}$ の合びき肉、同量の青葱の小口切り、生パン粉少々、しょうゆ少々

【作り方】

- ①材料全部をサッとまぜて、うすい7ミリ程度の小判型にまとめる。
- ②フライパンに油少々しき両面焼く。
- ③好みて和風きのこソースをかけてもよい。

(いりえ・かずえ/イラストも著者)

ビーカー炊飯実験

炊飯器の中のドラマ

片山 富美子

いつものことですが、「今日はビーカーでご飯を炊いてみます」、「なんていう導入の仕方はおもしろくないので、ひと味加えて、彼らのやる気をそそります。つまらん中学校生活の中で、教員の一言に彼らがチラッとでも「ん?!」と感じてくれればと、ここは一つ女優になって「ねえ、どうやってあの固い米が、炊飯器のスイッチ一つであんなに柔らかくておいしいご飯になるか考えたことない?」と問いかけます。

「そういうえばそうだな」という顔をするので、「今からみなさんに、炊飯器の中で練り広げられるお米のドラマをお見せしましょう」と大袈裟な導入をやりませう。物は言いよう、口は重宝、彼らのねぼけ眼がキラリと

光ります。前世が芸人だったのか：

：どうも私は、授業中子どもたち全員に見つめられていないとやる気が出ません。おまけに口が達者なので、そのくらいの台詞はぼんぼん出てきます。こういう小技も教員生活では結構重宝するんだよねえと、自画自賛する毎日です。

さて、今回のネタは、でんぶんの糊化の過程を見るためにビーカーでご飯を炊く実験。2時間でききます。5〜6班に分かれてやります。

◆ 一班分の準備物

300 ccのビーカー・米100 cc・

金網・軍手・アルミ箔

◆ 方法

① ビーカーの100 ccのところまで

米を入れる。

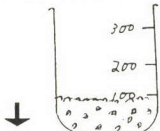
② ①に120 ccの水を入れ30分浸水させる(この間、炊飯に要する水の量を確認したり、米の浸水時間と吸水量のグラフを見せたり、子どもたちに炊飯体験(キャンプの飯盒炊飯や浸水させずに炊いた失敗談など)を発表させたり、家庭科室の片づけや鍋磨き、次週の調理実習の打ち合わせなど、その時々クラスの実情に合わせて30分を活用する)。

③ 30分後の米の体積変化を記録させる。

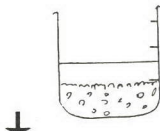
④ ビーカーにアルミ箔でびっちり蓋をし、金網を敷いて、コンロで米を炊き、米の変化(色・形・動き・体積)を観察、記録する(沸騰するまで強火↓2〜3分中火↓水がなくな

※ピーカーでご飯を炊いて、米から飯^{めし}に変化する様子を観察しよう。

- ①米を100cc炊く → 水の量は？ () cc ★覚えておこう
 【水の量】米の (体積の1.2倍 重さの1.5倍)



- ②水を入れ30分^{しんすい}浸水させる



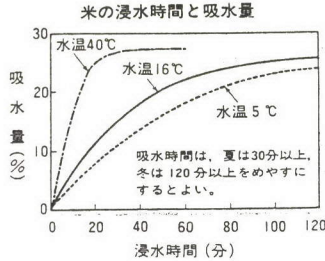
③

沸騰するまで強火
(アルミで蓋をする)

2~3分 中火

水がなくなるまで弱火

10分むらす
(まわりの水蒸気を米が吸収し、ふっくらしたご飯になる)



<練習問題>

- 1.米を100cc炊く時の水の量は () cc(g) 2.米を100g炊く時の水の量は () cc(g)
 3.米を250cc炊く時の水の量は () cc(g) 4.米を250g炊く時の水の量は () cc(g)

<実験の感想>

<おいしい炊飯のポイント>

- ! 30分以上水につけておく
 ” スイッチが切れたら(火を止めたら) 10分間そのままにしてむらす

炊飯の途中で必ずどこかの班のピーカーが割れます。事前に知らせておけば、動揺はしません。ひびが入ることもありますが、子どもたちは、平気で実験を続けます。

おこげができます。「生まれて初めて見た」とか、「うまい!」とか、いろいろな反応が返ってきます。

◆子どもの反応とポイント
 正確な米の浸水後の体積を観察させたいのと面倒の二つの理由で洗米はしませんが、できたご飯を食べたいという子が必ずいます。「どうぞ」というと塩をかけて食べたり、おにぎりにして食べます。

なるまで弱火 ↓ 10分むらす。

曲がり角の家庭科⑧

家庭科教育の幻想(2)

梶原 公子

●セクシュアリティをめぐる対立

これまで家庭科では、分野を大きく5つに分けてきた。衣、食、住、そして保育と家族である。衣、食、住は、人間生活の基本である。教科として扱っていくときもジェンダーとのかかわりが少なく、したがって男女で利害の対立が生まれにくい分野である。強いて言えば、食生活に關して、「作る人、食べる人」という対立がある。しかし、これもコンビニやファーストフードの普及とともに、選択肢が広がりそれにつれて対立も薄れていくのではないだろうか。

問題は今も昔も、「保育」と「家族」である。保育は大人の場合には「誰が育てるのか」が大問題である。しかし、高校生の場合はもっぱらセクシュアリティがシビアな第一の問題である。男女共修の家庭科を、というときに真っ先に授業で取り上げたのがセクシュアリティについてだった。もう20年近く昔のことである。当時の家庭科は、性別役割分業を下敷きとした主婦養成教科という位置付けがあったから、教科書にそのような記述はなく、参考になる資料も少なかった。手探りの状態で授業案を作り、それを実践しては随所で生徒の意見、感想を求めるというふうにやっていた。が、そのうちふとあ

る構図にはまり込んでしまったことに気がついた。それは「性交を迫られ、妊娠出産あるいは中絶を背負う女性VS性交を迫り、妊娠させ、出産や中絶に何ら痛みを負わない男性」という構図である。ともすると「全男子生徒は、全女子生徒の敵」として糾弾するような妙な雰囲気もかもし出された。この予想外の進行に、私は戸惑ってしまった。周囲の授業実践を聞くと、やはり似たような情報が入ってきた。教師が「不本意な妊娠をしないために」とか「男女の性意識の違い」などをあまりガンガンやりだすと、教室内の生徒は反発したり、加害者意識から下を向いてしまいい、うまくいかないということ

だった。

この男女の対立構図に関しては、その行く末を検証することなく過ぎてしまった。その後はセクシュアリティに関しての授業は女子生徒に対してだけになり、その反応も女子だけで、男子生徒の行動や意見は、彼女たちの口を通して語られる「彼女」の話が、唯一ともいえる情報になった。

昨年度もまた一年生を対象にセクシュアリティを取り上げた。そこで改めて、前記のような男女の対立構図は20年前とあまり変わっていないのではないか、という思いがした。「性意識」について、グループ討議をさせたところ、次のような意見に収斂していったからである。

女性にとって、妊娠、出産というのは大変な事態だ。その後の育児を考えると人生の一大事である。でも

男性は堕ろせばいいとか、逃げてしまえばいいとか考える人も多い。子育てを見ても女性に任せきりで、男性は何もしていない。男はとてもしない。

これは今日の日本社会の縮図でもあるから、高校生がこのように感じるのは当然のことかもしれない。男女共同参画とか、セクハラ防止という言葉が世の中に流布し、定着したかのように見える。けれども本当のところは、20年前とあまり変わっていないのかもしれない、という現実を見た思いがした。

しかし、その一方で、20年前とは違った現象がしっかりと進行している。

近年の高校生が、以前にも増して幼いなあと感じるのは私だけではないようだ。外見、言動、趣味、会話などにそれが感じられ、「私、ずっと子どものままでいたい」とはつき

り言う子もいる。それではすべて子どもなのか、というところではない。まだ中学生といっても通りそうな生徒が「センセイ、危険日っていつだっけ」という質問をしたりする。あなた、そのような覚えがあるの、という質問をしようとしている私に「まわす」「生理中は大丈夫なんだよね」というのだ。しかたなく、一通りの説明をすると「ふーん」とうなずいて帰っていく。そして何日か過ぎたころ「あのときのこと、なんでもなかったよ」とけろりとして言うのだ。また別の生徒は、避妊についての授業のあとでやってきて、だいぶ長い間雑談をした後「実はねえ……」と、少々困った顔つきで切り出した。今つき合っている彼が「やらせろ」と言っつてしつこく迫るのだそう。彼はいくつなのかと聞くと、同年齢なのだという。「それで、どうしたの」と聞くと、彼女はそういうこと

はイヤだから、と断り続けているのだという。「でもね、授業やっていて、色々考えて、やっぱり断ってよかったのだと思った」という彼女も、とても幼い感じで性欲とか性行動とは無縁の存在としか思えない。「やらせろ」と言って迫る彼は少年なのに、早くもオヤジと化している。このオヤジ少年とお子様女子高生のカップルは、どのような関係を築いてるのだろうか、首をひねってしまう。

また、近年はホームルームの時間によくイベントをやった。イベントのテーマは生徒に考えさせる。テーマとして彼女たちが好んで選ぶものがある。そのひとつに「高校生で妊娠したら、中絶すべし」というのがある。「女子高校生と妊娠」というテーマは、なぜかロマンチズムとスリルを呼び、しかもかなりリアリティがあるため、生徒が好んで選ぶもののひとつになっているよう

だ。事態の成り行きを傍観していると、議論の中に「男」が登場するとはほとんどない。「はじめに妊娠ありき」「もしも、私が高校生のままで妊娠してしまったら」という設定で、コトは進行していく。したがって妊娠させた男を責めるとか、責任をとってもらうべきというような男の介入はあまりなく、産んで育てるべきか、産まずに中絶し大学進学を果たすべきかというようなライフスタンスが話の中心になる。それは利害対立のない意見交換といった感じに、それ自体を楽しんでいるように見えるのだ。

このような状況を見てみると、この手のテーマは女子だけでやったほうがうまくいくのだ、という感じがしてくる。妊娠や出産、育児など、ジェンダーとかかわる問題は、男女で共有していくというのは、果たしてうまくいくのだろうか、それらの

問題は男女で共有できるものではなく、利害が対立に終始してしまうのだろうかという疑問を持ち続けた。

●高齡者介護をめぐる

ところで、男女で利害が対立するのは、保育の分野だけではない。「高齢社会と介護」というテーマが、新たに加わって以来、ここにも対立の構図が内在している。

これも昨年度の授業でのことであるが、「親の老後、同居イヤ」というアンケート結果を提示したときのことだ。（高校生の生活環境に関する意識調査」第一生命1992年による）この調査によると、「同居して面倒を見る」が、男子34%に対して、女子が26%で男子のほうが多かった。そこで「どうして男子のほうが女子よりも「面倒を見る」が多い

のだろうか」と聞いてみた。すると、女子生徒は異口同音に次のように答えたのだった。

「男子は『見る』と言っても、自分自身が見るわけではなく、自分のお嫁さんに看させる訳だから、気軽に言えるのだ。女子は看るといったら、自分が看る事になるのだから、慎重に答えているのだ」

そこには一種の憎悪さえこもっているように感じられた。

更に授業は進行し、生徒が中高年の人（主に自分の両親やその周囲の人）を対象にアンケート調査をし、高齢者介護や老後についての意識を分析する、という段取りになった。アンケート内容は「老後に不安はあるか、あるとしたらどのような不安か」「老後、年金だけで暮らせると思うか」「もし寝たきりになったら、誰に看てもらいたいのか」「老後、子どもとはどのような関係を保っていき

たいか」などというものである。

結果をまとめ、分析考察した後、グループごとに発表してもらった。それらを聞いていて、私の胸に一番響いたのはやはり「介護に関する男女の意識のズレ」を多くの生徒が指摘した点だった。それは次のような指摘である。

「男性は家庭介護を望み、女性は施設介護を望むということが、アンケートをとってみて実証された。女性性はホームヘルパーに介護して欲しいという人が多いのに対して、男性の多くは妻か娘を望んでいる。介護ロボットを望むのもほとんどが男性で、介護について現実的に考えていないことがわかる。一方女性性は、介護や老後に関してかなり現実的である。これはいずれ自分が老親の介護をしなくてはならないだろうという予測をしているからだと思う。また、子どもに対しては、迷惑をかけたく

ないと遠慮する人が多いが、もっと子どもを頼っても良いのではないか」

男性に対する手厳しい批判の反面、女性に対しては配慮があり、男女の対立構図が浮かび上がってくる。女子だけの分析考察だと、このままで完結してしまいそうだった。そこで、共学校で教えている友人にこの点について聞いてみた。すると彼女は、老後や介護の問題を男女で話し合わせるのには、限界があるというのだった。

「男子ってねえ、コトをマニユアル化したり数値化することが好きなのよ。それだと自己の達成度が確認できて満足するのね。介護の問題って、マニユアル通りには行かない問題でしょ。で、すぐに俺には関係がないっていう態度に出るから、そこでストップしてしまっって議論が深まらないのよ」

介護などについて男女で話し合わせる、男子はそっぽを向いたり、でなければ険悪なムードになったりして、話がかみ合わなくなり、大変なのだという。たぶん女子だけのグループのほうが話し合いが成立し、深まった議論になると思うわ、というのだった。実際は女子だけでも、問題ありなのだ。女性だけの立場で話を進め、そこだけで話を盛り上げて、「そっなのよねえ」とうなずきあい嘆きあっているだけでは、男女共有の問題に立ち至ることはできないからだ。

かつてはセクシユアリティが、男女の大きな対立点であったものが、ここに来て「高齢者介護」をめぐる問題がクローズアップしてきたようだ。そして、これは生徒たちの反応を見る限りでは、セクシユアリティに負けなくらい深刻なものがある。この二つについて整理してみる

と、いずれもジェンダーと深くかわわっているという共通項がある。育児と、高齢者介護とは、いずれもいわゆるアンペイド・ワークであり、女性役割の仕事という位置づけがある。これらがアンペイド・ワークであり、女性役割でありつづけている現状は、先進国の中でもとりわけ日本に根強い現象である。つまりジェンダーに深くかわわる問題ほど、男女の対立構図も深いということだ。

●少年と少女は出会えるのか

話は変わるが、「新しい歴史教科書をつくる会」で編集した歴史と公民の教科書が文部科学省の検定に合格したということが、大変問題になっている。この6月には採択に向けての問題も発生している。一連の経緯や教科書の問題性などについて「緊急学習会」を開くからぜひ参加

を、という友人からのファックスが届いた。呼びかけ人の友人に電話をしたところ、彼女が言うには、歴史よりもむしろ公民のほうが問題なのよ、という。「家族制度」を温存させるような記述が目立つからだという。それに続けて次のようにまくし立てた。

「でもね、『公民』のこの点が問題だということは、家に奥さんがいて上げ膳据え膳で優雅にやっている男の教員は何もわかってないのよ。だって家族制度の男にとつておいしいところは変えたくないわけでしょ。それでは『つくる会』のメンバーと同じ発想になつてしまうもの」

ああ、ここにも対立構図があった、と思わずにはいられなかった。いや、もしかしたらジェンダーバイアスのきついこの国では、このような対立構図はいたるところにあるといつてよいのかもしれない。ジェンダーバ

イヤスがきつい、ということとは性別分業が、公式通りに運用されているということだ。性別分業が公式通りということとは、男役割、女役割をきつちりとこなして、家庭生活の円滑化を図るのだ。従ってジェンダーフリーになってその垣根を越えようとはしないということだ。垣根を越えてしまうと男は既得権を失い、専業主婦は優遇策を受けられなくなる。しかし、垣根を越えないということは、相手の状況ややっていることを実感を伴って理解することにはならない。だから、育児や介護が共通の問題にはなりにくい。このような状況の中で、キャリアを積んで子どもも育てたいと思う女性は、大きな負担を背負うことになり、男女での利害対立が発生する。

生徒と接してきたなか、少年と少女は出会えないどころか対立していることがわかったからだ。

家庭科が男女共修になった出発点は、性別分業の是正だった。それは、男には男の役割、女には女の役割という点で「同等」であるのではなく、「同一」でなくてはならないという基本理念があった。つまり、女性が育児をするのなら男性もそれをやらなければ「同一」とはいえないということだった。だから「男女で学ぶ保育」を実践してきたはずだった。

しかし、このような当初の理念から十数年たった今、そこに少しでも近づいているかという点、それは「ノー」と言わざるを得ない。少々きつい言い方であるが、共修後の家庭科は、共修になったという事実心安堵してしまい、共修にした本来の意義を忘れてしまったのではないだろうか。あるいは、「男女で学ぶ保

育」といいながらも、実際は男女共有の問題として授業化する、ということができなかったのではないか。

今回の指導要領の改訂では、前回も述べたように「青少年の愛と性」を扱う項目がなくなっていて、男女で話し合う題材がひとつ欠落してしまっている。しかし、このことにめげることなく、このような題材を男女の対立構図に持っていくのではなく、男女共有の問題に転換させていくのが、今後の家庭科のひとつの大きな課題であると思うのだが。

(かじわらきみこ／元公立高校家庭科教員・立教大学大学院社会学専攻)

女が歳をとるといふこと

木村 栄

「行ったことないから四国がいい」

「四国の、どこがいいの？」

「四国ってどこへ行くものなの？」

こんな調子で始まったNの定年旅行だから、プランを立てるのも大変だ。

で、ついでの折りに旅行社を覗いてみた。体力のない私にも乗れそうなツアーがないか、と。だが、どれも帯に短し褌に長しで、適当なのがない。パンフ類を読み散らして迷ったあげく、また出直すことにして立ち上がった。

そして、ドアを開けながら、私が

言ったのである。

「結局、一番ゆつくりできるのはヤチヨなのよね」と。

Nは「え、何、どこ？」と耳を寄せ、私が繰り返すと、「まったくもう」と怒りだした。

ヤチヨは喫茶店の名前である。

どこかで一休みしながら計画を練り直そう、落ち着ける場所がいい、となるとやっぱり行きつけのヤチヨがいい。ドアを開けるまでの間にそう考えて、「結局」になったわけである。

「誰だって旅行の話だと思おうわよ！」

「頭のが速すぎるのかしら」

「よく言うワ。わがままなのよ。人も自分と同じように考えてると思ってるから、突然話を変えて平気なのよ」

なるほど。

そう言うNも、自他ともに認めるわがまま。だから、お互いのわがままに寛容で、気が合うのだ。

順調に四国の旅を楽しみ、最後の

日は、愛媛に住むNの少女時代の文通友達Aさんが案内してくれた。内子、松山を見て、仕上げは「坊ちゃん」ご推奨の道後温泉本館の一風呂である。

休息用の個室で浴衣に着替えて、さあ、とNを促すと、涼しい顔で「私は入らない」という。

「温泉あんまし好きくないし、だるくなるし、風邪気味だし」

私は慣れてるが、驚いたのはAさんである。言葉を尽くして勧め、諦め、私を追って湯を浴び、私の背中を流し、「Nさんのお相手をしますから、お先に」と、そそくさと上がっていった。

気の毒に、二人のわがまま女に対処するには、半分ずつ付き合うつきやないと、とっさの機転をきかせたのだ。

Aさんの額の汗を見ながら思った。人のわがままに振り回されないためには、自分もわがままになるつきやないと。(きむら・さかえ フリーライター)

大曼蛇羅

凶鑑

連載●第23回●蔦森 樹

東京の和光大で授業が始まった。新設の表現学部、「女と男の表現学」である。前年は指紋捺捺拒否による最初の逮捕者となった、性人類学者のキムミヨンガンさんだ。戸籍制度の話では白熱授業となったことは想像に難くない彼と、一年交替で受け持つたのだ。

表現学部表現学科という変わった所を選んだ学生さんたちだ。さっそく何か表現してもらおうかと、授業中に資料をコピーしに行く間、場つなぎ役を指名した。指示なし課題なしで、突然身代わり授業をしてもらおう。いったいどういふことをするのだろうか。

だが、わざとゆっくりコピーをとって教室に近づくと、なにやら激しく盛り上がっているのである。後からそっと覗けば、黒板いっぱい、生徒さんたちが思う私のイメージなるものが書かれていたのだ。

おもしろい、変わっている、雰囲気がいい、得体が知れない、ごつい、でかい、足太い、けんかしたら強そう、生徒と区別がつかない、男らしい女、うっちゃんが女装している、YOUに似ている、実は全くすタイプ、

毒舌乙女、すごいジャンプ力、がまんが嫌いな、部屋が大きいというのもあった。

「言いたいこと言いやがって」と思うが、そっと教室に忍び込んだ。そして美川憲一さんぽい低い声で「あんた、余計なお世話よ！」と司会の学生を驚かす。ふん、負けないわよ、である。

2コマ連続授業だ。時間はたっぷりある。授業前半では提出してもらったスタイル自由の「写真付きの自己紹介カード」に、「これにオリジナリティがあるって本気で思っているの?」「見え見えの手抜き」などと、いやらしく文句をつけ嫌みなども言って、80人ひとりひとりやりとりをして後である。早くも、安心してお互いにもを言っている雰囲気が始まったのだ。

生徒と教師がお互いにチクチク刺激しあう楽しさ。それを堪能する授業ができたら何か生まれそうである。それがとても楽しんだ。

(つたもり・たつる/作家)

「嫁」の契約書（中）

竹信 三恵子

前回の熊本での取材からもわかるように、農家の家族経営協定の試みは、「何かあるたびにいちいち夫にお金を出してもらわねばならない窮屈さ」や「いくら働いても評価が見えてこないことへのいらだち」を抱く農家の女性の悩みから出発している。だが同時に、この試みには、いくつかの疑問もつきまとい続けている。「嫁への賃金」は、何をどう評価するのか、換金作物への依存度が少なく、手持ちの現金が少ない農家は、それだけのものを払えるのか、そもそも現物本位の農村社会で、労働を換金するのがいいことなのか、といった疑問だ。

●いくつもの疑問

たとえば、農作業に関わる未払い仕事だけをカウントし、家事・育児を除外すれば、企業社会での女性の仕事と家事の二重負担や低賃金化、収入の男女格差を農村で繰り返すだけ、ということになりかねない。

農家の「嫁不足」に詳しい知り合いの女性が、「いまだ

きの農家の嫁事情」を次のように話してくれたことがあ
る。「最近の農家のお姑さんは、都会からお嫁にくると、
大事に大事にして農業にさわらせなかつたりする。だから、自然とのふれあいなんかを夢見て農家へきても、た
った一人で家の中で家事をしているだけ。ある日目覚め
て、農業経営に関わろうなんて考えてものを言い始める
と、家族は、しらーっとした雰囲気になる」。

仮にこうした事態が進むとすれば、「賃金」はもらつて
も農業経営への発言権は増大しない恐れもある。

また、熊本県の取材では、「ほんとに給料をもらえるん
ですか」と身を乗り出す女性たちを横目に、「農家は土地
を分けられない。家族みんなに経営権や所有権を認める
なんて無理だ」「現物経済が多い農家にはとても払いきれ
るものではない」と渋い顔になる「家長」の姿をいくつ
か見た。

二〇〇一年四月七日付朝日新聞オピニオン欄で、岩手
県東和町いきいきまちづくり推進室長の役重真喜子さん

は、不況下を生きるための非換金経済への発想の転換を呼びかけている。論の中では「ここじゃ現金六割さ」といい、「あとは畑を作って自給して、隣近所で人手を貸し合い、十分楽しくやっていける」と笑う農業主の考え方を引用し、現物経済の比率が大きい農村のあり方に学ぶことを提案している。

主張の下敷きになっているのは、換金作物への依存度を増やした農家ほど農産物自由化の痛手をかぶったという教訓だ。自分が食べるものではなく、お金に変えやすい作物を作って、その代金で食べ物を買うという換金作物依存型の方式だと、海外の安い輸入作物が大量に流入してきたときに、これに押されて収入は激減し、ひいては食べるものにも困る事態になる。グローバル化の中で、いったんお金に換えるのでなく、モノとモノ、労働と労働を直接交換する現物経済の比率を高めていくことこそが、生活の安定に役立つという機運は高まっている。そのなかで、「女性の無償労働への支払い」は、「労働を換金する」という共通点から、お金の変動に左右される不安定な市場経済化への「逆行」と混同され、批判を受けかねない状況にさらされている。前回にあげた中村陽一氏の批判も、女性の経済的自立ばかりを言い立てて、貨幣経済の支配をさらに増やすつもりか、という気持ち

が含まれているといえそうだが。

もちろん役重さんの論は、家族経営協定とはまったく無関係な文脈で展開されているので、中村さんの論とは別物である。しかし、たとえば役場の職員のように、農村にあっても男性並みの自分名義の給料を受け取り続けている人が、「いちいち夫からお金をもらわねばならない」農家の女性の窮屈さに必ずしも敏感になれないことはありうる。逆に、立場があまりに脆弱であるがゆえに夫に賃金を要求することなどできっこないと考える女性たちも少なくない。こうした両陣営の人々が、「市場経済からの退却」論の隆盛に引きずられる形で、今後、一気に無償労働の貨幣的評価の否定にまでなだれこんでいくことは、ありえないことではない。

●市場経済化の尖兵？

はたして、女性の見えない労働の貨幣評価は、「現物経済に支えられた農村の共同性を壊す市場経済化の尖兵」なのだろうか。

九二年度から九五年度までの期間、農林水産業特別試験研究費によって行われた「家族農業経営における労働報酬の適正な評価手法の開発実績報告書」（主任研究者・日本女子大、宮崎礼子教授）は、見えにくい農家の労働

報酬をどう評価すべきについての基本的な考え方を要領よく整理している。この報告書の提起している考え方は、共同体の破壊や、市場経済主義者の発想の、むしろ逆をいくものだ。

ここでは、農家の労働を①農業労働（農作業・農業労働、経営管理労働、家事労働的営農関連労働）②育児介護労働③地域守り労働の三つにわけている。地域守り労働とは、「二〇〇一年に向けて、新しい農産漁村の女性に関するビジョン懇談会報告書 一九九二」で述べている「地域社会活動の重要な担い手」としての労働だ。ここでは、家族の健康、子どもの教育、慣習・慣行の見直し、地域社会の高齢化への対応、消費者との連携、地域の美化など「農山漁村にとっては今後一層重要性を増すと予想される地域の重要課題」について継続的に担う人材として女性を位置付け、カウントすべき労働の三つの柱の一つとしてあげること、評価対象が①、よくて②のみに片寄ることを防ごうとしている。

また、企業での女性労働評価についての研究をもとに、女性が多数を占める「女性職」に低いポイントをつけてきた従来型の賃金評価を避けることを強調し、職種は違っても、同程度の労働なら同程度の価値といった評価方法を採用することも提案している。たとえば、家事・育児に

極端に低いポイントをつけないこと、育児にかかる費用の支給と、担当者への労働報酬を混同しないことなどだ。

さらに、一人が多様な労働を複合的に行っている家族経営の農家では、どの家族の報酬も一律に労働時間×同一の時間単価とすること、職務遂行能力や貢献度は評価が恣意的になり家族間の格差が大きくなることから導入しないこと、農家の経営はトップダウンというより水平であることから、特定のだけかを管理的業務者としないうこと——を報酬の決め方の基本線としている。

●透明化のための装置

これらを見てくると、家族経営協定によるアンペイドワークの評価とは、一見、「カネの話」のように見えて、実は、「権限または権力の話」であることがわかってくる。つまり、実態のない家長⇨男性⇨支配に、数量的な労働評価を通じてストップをかけ、女性をはじめとする真の担い手の働きをはっきりさせて、実態にもとづいた共同体を再建するための透明な組織づくりの道具であり装置なのである。

報告書には、しばしば言われている「支払えるのかどうか」の試算も盛り込まれている。まず、専業農家の年間一人あたり換算労働時間を男性二千九時間、女性二千

八時間と推算し、その結果から一人あたり二千時間の労働とする。また、総務庁の社会生活基本調査とNHKの国民生活時間調査から、育児・介護時間の男女別平均を割り出し、これに平均賃金などの単価をかけ合わせる。もつとも単価が安い地域最低賃金の最低額をかけ合わせると、農業労働が百五万六千円。育児介護は、全女性の平均で六万七千円程度、介護や育児を担当している女性で八十万九千円程度となっている。地域守り労働は、データがないため除外されている。

報告書作成チームが九三年、青色申告農家を対象に十二道府県、百十二農家で行った中の千葉県での聞き取り調査によれば、最低賃金で払う場合なら対象の十四農家の全てが支払い可能という回答が出た。にもかかわらず、給与がこの水準に達しているのは五農家にすぎなかったという。兼業農家はいざしらず、専業農家の場合は、支払い可能でありながら、それより低い水準に抑えられている場合もあることが推測できる調査結果である。

このように家族経営協定が広がりにくい原因として、「どんぶり勘定」をあげているのは、家の光協会の「農村女性に見るお国柄の違い——農村女性に関する国際比較調査」(二〇〇一年三月)だ。調査は二〇〇〇年、日本と韓国、フィリピンの三国の農家の二十歳以上の男女に調

査を行い、その特徴を比較した。「家の農業に従事したときの報酬の受け取り方」について聞いたところ、日本では男女ともに「報酬を受け取っていない」「必要ときに受け取る」が六六%にも及び、韓国の四一%、フィリピンの六一%に比べて最も多い。報告書では「農業経営と家計が明確に区分されない状況」「正当な労働報酬を受け取りたくても、家庭の中で女性だけが権利を主張するようでカドが立つ、と感じる人がいても不思議ではありません」と解釈している。

「どんぶり勘定」であるために報酬は男女とも要求しない形をとりながら、生活でストレスを感じることを聞いた調査では、「自由になるお金が少ない」についての男女格差が、日本はもつとも大きい。共同所有のような形をとることで女性の権利申し立てを抑えこみつつ、裁量によつて男性の権限を大きくしているのではないかと疑い、たくなるシステムがそこにある。

アンペイドワークの評価は、数量換算というごまかしのきかない装置によつて、こうした支配の方法も浮かび上がるような測定方法の開発こそが求められているともいえる。

(たけのぶ・みえ) 新聞記者

党を变色させた

小泉首相、

本当は何色？

木村 民子

五月の連休はドイツ・デンマークの福祉研修ツアーに参加する予定だったが、腰痛がひどくなり直前でキャンセルした。議会もこの時期は比較的ヒマで、議員になって三年目によくやく海外視察の予定を組めるようになった。そして今回のデンマーク訪問は私の友人でもあるブンゴード孝子さんのコーディネートだったので楽しみにしていたのに、無理がたたったのか、ドクターストップ。しかたない、神様がくれた休暇と思

い、少し家でのんびりしようと思つた矢先、九州島原から父の弟の訃報が飛び込んだ。母も同郷なので、すぐにも飛んで行きたい様子。病後の母ひとりを帰らせるのも心もとなく、私がお供することにした。私も一五年ぶりの里帰りである。しかし、豊かな自然、濃やかな人情、潤いのある暮しは、もうそこにはなかった。叔父の家は水無川流域にあったが、土石流で埋れ、仮設住宅から移つた今は、市営団地に住んでいる。浜辺のそばの広々とした風通しのよい家から狭いアパート住いになり、叔父の病状は悪化したという。以前住んでいた土地の区画整理事業が被災後十年を経てやっと完了し、叔父はその上棟式を目前にして亡くなつたのだ。この安中三角地帯の高上げ事業に、叔父の長男、つまり私の従兄弟は、反対派住民などの説得や意見の取り纏めに奔走し、その努力がようやく実つたといふのに。

葬式はしめやかに盛大に行われたが、お清めの席でも災害の爪あとのひどさや前途多難な復興が話題にのぼつた。島原市に滞在中、私は市の復興記念館、県の土石流被災家屋保存公園、国土交通省の資料館なども見て回り、市長にも面会した（どこへ行っても、視察し情報収集に励むという天晴れな議員根性が身につけてしまった私です）。

市長や親戚から聞いた話で印象に残つたことがいくつもあった。第一は災害で壊滅した漁業、農業の立て直しをどうするかということ。親戚の子どもたちも成長し、それぞれ所帯を構えていたが、地元で産業がないので、今は復興工事や復興プロジェクトの第3セクターなどで働いている。不況と災害のダブルパンチを食らったわずか人口四万の小さな市の将来を思うと、暗澹たる思いにとられる。

また、市長から島原市には女性議

員が一人もいないと聞き、ため息が出た。「男女共同参画といっても、どうもピンとこんですよ」と市長は嘆いた。島原の女性はしっかりと働きの多いのに、天下・国家を論じる場は男性ばかりということも、気になっていたのだ。

大いに話に花が咲いたのは、やはり小泉首相への期待だった。諫早湾干拓工事をどうするのか、生活手段を根こそぎ奪われた土地だけに、島原の人たちの政治に対する意見は厳しかった。地方から中央に目を投じてみても、やはりこの国はどこか変、と改めて思った。

というのも、森首相の退陣表明、自民党の総裁候補選び、橋本、小泉、亀井、麻生四氏の立候補による総裁選、党員たちの予備選挙、国会での首相指名選挙という一連の動きを、私は何ともすっきりしない思いで見ているからだ。何か変。これで「自民党は変わる、日本は変わる」と言

えるのだろうか。そもそも、国民の大半は支持政党がなく、自民党を支持するのはわずか二四％ではなかったか。つまり国民の多くがもう政権を託すに値いしないと考えている政党の後継者選びを、マスコミはあたかも首相公選のように取り扱った。

総裁選びも大事だが、他にも大事なことはたくさんあるのに、国民はそこから目をそらされている。小泉政権誕生までの間、国会では予算審議が行われ、DV防止法案が可決されたにもかかわらず、それらはほとんどかすんでしまった。

わが一地方議会でさえ、予算特別委員会は重要で、結果的には予算が通ったとしても、かなり細かく問題点が追及される。地方行政レベルでも、情報公開が進んでいるので、機密費のような不透明なお金があったら必ず問題にされるし、この不況下で前年と同額とは考えられない（一三年度予算は一律一五％カット）。D

V防止に関しても、国の法案成立をにらみ、シエルターのないわが区では、緊急一時保護用にホテルの一室を借上げるための予算を約五〇万円計上した。わが区としては先進的な取り組みだったが、国の法案成立が遅れたため、民間シエルターやNPOへの実質的な援助が見送りととなったのは残念だった。

小泉さんは派閥にとられない組閣を断行し、女性閣僚を最多の五人も登用したことで、女性層からも支持されているが、その発言には「男らしく」「雄雄しく」「男を立てる」などの言葉が多い。すでに「首相公選」を突破口に、「憲法第九条改正」などに関して踏みこんだ発言をしているのも気になる。

ジェンダーの視点や男女共同参画の理念からいえば相矛盾する政策が、八五％の高い支持率をバックにどんどん打ち出されてこないだろうか。（きむら・たみこ 区議会議員）



(イラスト・中畝治子)

料理当番

食事も交替で作っている。一日ずつというより、肉、魚、豆腐といった素材の違いでひとあたり作って、二三日で交替となる。「どっちが旨い？」と子どもに聞くと、「お母さん」とすぐ答える。それは〈母＋味＝おいしい〉というイメージでそう思い込んでいるに違いない（あるいは母を褒めておいた方が得と思っているのか？）と私としては主張したいのだが……。結婚してから料理を始めた妻より、学生の頃からやっていた私の方が料理歴は長い、味はちよつとだけ妻の方がいいらしい。悔しいがそれは如何ともし難い。

来客の時は大抵私が食事を作る。「今日はお父さんが作りますから」と妻が告げるだけで驚かれる。男が作ることに驚くのか、夫にやらせる妻に驚くのか、果たしてどちらか？ しかし私が作れば、おいしくなくても「男だから」と諦めてもらえるし、おいしければ「男なのに」と褒められる。褒められれば私も嬉しい。これは、主婦として採点されることから逃れたい妻の陰謀かもしれない。ただ、夫婦の来客で、「あなたも少しは見習いなさい」と夫が妻に責められたりすると、こちらも居心地が悪い。もともと食べるのも料理するのも好きで、他人の作った

料理が目の前に並ぶまで待てないので自分で作ってしまい、ついでに人に食べさせて「うまい」と言わせたいだけなのだ。知り合いに、中学生の息子の弁当を作るお父さんがいる。仕事で夜遅くなくても必ず冷蔵庫を覗き、献立を考えてから寝るのだそうだ。凄いやと思うが、やっぱり、作って「うまい」と言ってもらいたいのだと思う。

週に一度友人家族と一緒に夕食を食べる。子どもたちは肉が好きだが、野菜も食べてもらいたい。こういう時は夫婦で献立を考える。子どもに「今日は何？」と聞かれ、ぎょうざ等の人気メニューだと「おーっ！」と喚声が上がると、作っているのをしょっちゅう覗きに來てうるさい。「一人何個？」とまたうるさい。しかし、「いただきます」と食べ始めた途端に静かになる。その極端な違いがおいしい。たったの五分だが、食べる音しかしないのはおいしい証拠だ。それは料理人に対する勲章だ。子どもたちが、少しでも大きい方を取ろうと競い合っているのもなかなか良い。大したものでもなくても、皆で食べればやっぱりおいしい。クッキングハウスの松浦幸子さんの「おいしいね」と言い合いながら食べていると、気持ちがあがれて元気になれる」という言葉通りだ。やはり、おいしいのが一番なのだ。

オリンピックマラソン選手だった岡谷幸吉の「〇〇お

いしゅうごぞいしました」という、食べ物と感謝の言葉を書き連ねた遺書は印象的だった。食べ物は大きな存在なのだ。わが子に伝えたい親の思いも、言葉や文章でどれだけ伝わるか分からない。毎日毎日、直接からだの中に入る食べ物も、もしかしたら一番なのかもしれない。

そうだ、そう言えば、このところマンネリだったなあ、とちよつと反省してみる。 常雄

* * *

妻のいぶん……今晚は何にしようかな。そろそろマーボー豆腐かな？なんて思っていると、夫も同じメニューを考えていることが良くあります。これって以心伝心？いえいえ、単にマンネリ化。年をとると、なかなか新メニューを取り入れられないのです。二人とも。 治子

* * *

二人展のご案内……二年ぶりに「二人展」をします。二人とも、子どもにまつわる役目がまだまだあり、絵一筋という状況ではありません。この「絵も、絵以外のことも」という欲張り状態の方が、社会や人間に対する関心を失わず、制作意欲にもつながっているようです。ご覧いただければ幸いです。

期間…2001年6月19日(火)～24日(日)
時間…初日19日(火) 13時～19時、20日(水) 13時～11時
19時、最終日24日(日) 13時～18時

会場…銀座教会ギャラリー(中央区銀座4-2-1/TEL03-3561-

2910/JR有楽町駅・地下鉄銀座線C6出口)

おべんとう一考察

松本一郎

息子の小学校は毎日が弁当だ。仕事で遅くなって家に帰ると、奥さんが「明日はお弁当なのよ……」と、おつくうそうに、それでいて何やら楽しそうにつぶやいていることがある。台所はキレイに片づけられ、朝一番でゴハンが炊きあがるように炊飯器のタイマーがかかっている。献立も決まっているようだ。そして翌朝には早起きしてお弁当製作にかか

る。出来上がったお弁当は、まるで玉手箱のようだ。ウインナーはタコさんのようで、おにぎりは目や口がついてヘアースタイルのように海苔が巻いてある。そんな弁当を見ると、自分の子どもの頃を覚えてしまう。

ボクは弁当を学校に持って行った記憶がない。いや、きつと持って行っただろうし、遠足なんかの時にはみんなと一緒に弁当を広げて楽しんだのだろう。しかし、あまりにも強烈な弁当のイメージがあつて、その後、母親に自分から「明日お弁当だから」と言った覚えがない。

あれはいつ頃のことだろうか。たぶん小学校3年生ぐらいだったと思う。その頃、我が家の主食が玄米食に変わった。玄米食といっても、圧力釜ではなく鍋を使ってふつうに炊いたもので、炊きあがったゴハンが、ほんとうに米一粒がパラパラと音がるようなしるものだった。

進んで玄米食に変えた母親は「おいしい、おいしい」と言うが、そんな言葉にだまされるほど単純ではない。ボクにとつては、はつきり言つてマズイものだった。母は、おいしいという言葉と共に「玄米食だと、おかすがいらぬわね。お米だけでも十分栄養がとれるのだから……」とつけ加えた。食べ盛りの子どもを前に、マズイものを差し出して、その上に「おかずもいらぬ」というのは、それこそメチャクチャな話だ。ボクは断固抗議した。「白米を食べさせろ」と。でも、力及ばず、我が家はそのパラパラの玄米食と質素なおかずという生活になった。

前に読んだ『子どものことを子どもにきく』（杉山亮著・岩波書店）の中に、彼の息子が6歳の時のインタビューで、通っていた保育園の給食の話があつた。その保育園は自然食を中心とした給食をウリにしてい

て、その給食が子どもたちに評判がいいという。その中で『もちろん栄養価や添加物、季節物などに気を配る園はたくさんあるだろうが、ともするとそれ自体がウリになってしまふ。要はそういうことに気を使った果てに、おいしいお昼ごはんになるかどうかということだろう。菓を飲むのではないのだから』とあって、当たり前のことなのに、大人側の思い入れや判断が、子ども不在の上になり立っていることが、自分の体験を通してあまりにも多いので、思わずうなずいてしまった。

ボクに（親に期待をしてはダメだ）と決定的に印象づけたのは、遠足の思い出だった。その日はお弁当を持って行くことになっていた。朝、ハンカチにくるまれたお弁当を渡され、集合場所の学校へ向かった。

今から考えると、とてももったい

ないことだとは思うけど、小学校の途中から学校行事を楽しむにすると気が構えがなくなっていた。しょうがなく参加するというスタンスだったので、楽しみでもなく、苦しみでもなく、みんなが流れるほうへ身をゆだねていた。せっかく参加するのだから積極的に楽しもうと思えば、いくらか思い出にもなっただろうに。そして、お弁当も卵焼きにウインナーなんていう内容だったら、それこそ遠足に行ったことすら忘れていただろうと思う。学校に集まって、みんなで歩き出した。どのくらい歩いたのかも覚えていないが、たぶん動物園に行ったのだと思う。

お尻を向けて全然動かない熊を見たり、秋だというのに蝶が飛び回る温室を見たりしながら、芝生の広場で昼食となった。木陰に入って、仲間たちとお弁当を広げる。待ちに待った時間だ。だけど、なんとなくい

やな予感があった。なにしろ、玄米食と質素なおかずが我が家のメインディッシュなのだから。

お弁当を開いて「ああ、やはり」と予感的中した。開いたお弁当の中身は、玄米食と納豆だった。クラスメートはおかずを取り替えっこしたりしている、その風景を横目で身ながら、取り替えようもない納豆をごはん混ぜ、パラパラの玄米ごはんに粘りのある納豆はやけに絶妙な取り合わせで、遠くに広がる緑を目にしなが、絶妙の取り合わせだけど、とても食べづらいその弁当を、仲間たちに覗かれないようにちよつとハスに構えて食べながら、親に対してヘンな期待を持つまいと心に誓った。そして、早く大人になりたかった。（まつもと・いちろう／キミ子方式・講師／イラストも著者）

◎ご感想・ご意見おまちしています。

ichiro-m@kaz-so-net.ne.jp

prevent pregnancy but also prevent sexually transmitted diseases. Try to find a time to talk about it with your partner.

【会話例の訳】

A:ねえ、お母さんと避妊について話をしたことがある？

B:全然したことない。あなたは？

A:私たちはよくするのよ。

B:本当？ 私のお母さんはそういうことを絶対に話したがるらないのよ。

A:でも、避妊やセックスについて考えるのは大切なことよ。

B:私もそう思う。避妊方法を選ぶのって簡単じゃないわよね。

A:その通りね。効果や利点や副作用のことを考えなければいけないわね。

B:でも、彼と避妊の話をするのは結構むずかしい。

A:そうね。でも大切なことよ。避妊は妊娠を防ぐようにするだけではなくて、性感染症を防ぐことにもなるのだから。とにかく、彼と話す時間を持つことね。

【Glossary】

birth control 避妊

effectiveness 効果

intercourse 性行為

prevent 妨げる

pregnancy 妊娠

sexually transmitted disease 性感染症

side effect 副作用

【豆知識】

人口増加の抑制が急務とされる第三世界の国々では、十分なインフォームド・コンセント (informed consent) がないまま半強制的に危険な避妊法や不妊手術が行われ、健康を害する女性たちが現れています。産む／産まないの決定権は女性にあり、女性の健康が守らねばならないとするのがリプロダクティブ・ヘルス／ライツ (Reproductive Health/Rights) の主張です。

●吉原さんは仲間たちと女性問題を語るための英語講座「Colors of English」を月2回行っています。

第4回 (6月2日)「女性の政治参加」 第5回 (6月16日)「性別による職業分離」

第6回 (6月30日)「男女で異なる教育への期待」

(いずれも東京ウィメンズ・プラザにて・土曜日・14:00~16:00/参加費1回1500円) 参加してみませんか?お問い合わせはフェミックス (TEL/FAX 03-3424-3603) まで。

英語で女性問題を語るための ワンポイント・レッスン

吉原 令子

(大学講師)

第3回

避妊をめぐる問題 Birth Control

「避妊方法＝コンドーム」という考えが圧倒的多数を占めていた日本で、2000年にバイアグラの導入と共にピルも解禁になりました。何となく胡散臭さを感じながらも、避妊の選択肢の多様化という意味において歓迎されるべきなのでしょう。でも、「避妊について彼と話しあうのはちょっと恥ずかしい」とか、「親と話しあうなんてタブー」って人はいませんか？ さまざまな避妊方法やその効果、副作用などを知ることはとても大切なこと！

【会話例】

A: Do you talk about birth control with your mother?

B: No, never. How about you?

A: We talk about it a lot.

B: Really? My mother never talks about that kind of issue.

A: But it's very important to think about birth control and about having intercourse.

B: I agree with you. Choosing a method of birth control isn't always easy.

A: That's right. We must consider the benefits, the effectiveness and the side effects of the various methods.

B: But talking about birth control with my boyfriend is hard.

A: I know. But it's important. Some methods of birth control don't only

来陽子

■遊ぶ子、変な子、時間を守る子

5月になった。朝8時に教室へ行って私は仰天した。いつものこんな時間には、どの教室にも1人か2人の子しかいないはずであるのに、3年1組だけは、もうほとんどの子が登校してきているのである。教室中騒然となっており、ロッカーや机のあちこちに、子どもたちの道具箱や防災頭巾が雑然と積まれている。今日は席替えの日だったのである。すっかり忘れていた私の驚きは大きかった。座席への関心がこんなに高いとは思ってもみなかった。打ち合わせのため、私はいったん黙って職員室に引き上げ、授業のために教室に戻った。するともう、座席は全員きちんと決まっていた。

その日の下校時、クラスで一番大きい石田くんが、なぜか暗い顔で私に聞いてきた。

「先生、変な子Vって、どうすればいいの?」。

何のことか分からないままに、私は軽く答えた。

「そうねえ、まあ、石田くんなりに考えてみて」。

その日は「鯉のぼり集会」の前日でもあった。

この学校では毎年クラスで一つの大きな鯉のぼりを作り、

鱗に子どもたちそれぞれのめあて、エラに学級全体のめあてを記入することになっている。そして集会でクラスごとに趣向を凝らした方法でお披露目をする。鯉のぼりは、その後一年間各教室正面に掲げておくのである。そのためか、どのクラスの鯉のぼりも色鮮やかに美しく作られており、その学級の意気込みのほどが感じられるものである。しかし私は、こういったものにあまり意義をみいださない。子どもたちに作らせると大騒ぎになって面倒でもある。ただ、「やりたくない」とは誰にも言えない。そこで今年子どもたちにこう言った。「誰か、休み時間に鯉のぼりを作りたい人はいませんか。絵の具と紙を置いておきますので、好きなように作ってください」。

すると、15人くらいの子が名乗りをあげ、休み時間に大騒ぎしながら入れ替わり立ち代りして鯉のぼりを作り始めた。私は作り方を説明する代わりに、他クラスの子がごみ置き場に捨てようとしていた1年前の鯉のぼりをもらってきて、窓のところに飾っておいた。

「まあきれいだ」。「あら、もうできたの?」「あ、よく見たら私のところのじゃない」などと、窓の「見本」を見て他クラスの教員が声をかけていく。子どもたちはとうとうと、あちこち人乱れながら、頭の部分を青く塗る子、尻尾を黒くする子など、思い思いに作業を進めている。そして、授業が始まるど何をおいてもその作業は止めるので、教室の中には絵の具

や筆、紙などが散乱することになった。以前の私なら、「片づけて！」と叫びたいところである。しかし、次のような理由のあることを知っている私は、もはや教室が散らかっていても気にならない。それはこういうことである。

鯉のぼり作りに先立ち、私と子どもたちは「学級のめあて」を替え歌にして集会で歌うことに決めていた。それはこんな歌詞であった。みんなで歌うと実にユーモラスで最後には誰でも必ず吹き出してしまふ歌である。

『3年1組の歌』（作詞…北山美香 作曲…アメリカ民謡「アルプス一万里」）
3年1組今年のめあてとつても楽しいクラスです。遊ぶ子、変な子、時間を守る子、遊ぶ子、変な子、時間を守る子……つまり、まわりくどいが、子どもたちの「学級のめあて」のひとつは時間を守る子Vの体現が、チャイムが鳴るとパッとそれまでしていたことを止めて席に着くことなのである。まだスタートしたばかりなので、ついあちこちに道具を置き忘れることにはなるが、それは大目に見なくてはならない。小異を捨てて大同なのである。そういえばこのクラスの帰り支度はとびきり早い。遠足のときなど、ほかの教員にも驚かれた。「来先生って、ホントは恐いんじゃないの？」と、からかわれたほどである。

鯉のぼり集会の朝を迎えた。職員打ち合わせを終えて教室に行く、教室の後方には灰色っぽいよれよれした鯉のぼりが立てかけられており、スーパーマンのように風呂敷を背中

にかけたチーちゃん、海賊のように黒い眼帯をしたオグ、新聞紙で作った筒を持った正ちゃんなどが、静かにきちんと席に着いていた。石田くんは、頭からストッキングをかぶっていた。一瞬吹き出した私は、昨日石田くんが不安げな顔をして私に尋ねたことにやっと思いだった。彼は、集会のための準備について思い悩んでいたのである。「学級目標」に△変な子Vとあるからには変な子にならなくてはいけないと。

集会のためにみんなが講堂に向かった。正ちゃんは、紙の筒を教室に忘れていた。糊付けがいいかげんな鯉のぼりからは、鱗がポロポロ落ちていく。鯉のぼりの竿が狭い通路のあちこちに引っかかるたびに、子どもたちは歓声を上げた。私は、最後尾から黙って、ときおり鱗を拾いながら行っていた。会場にはきらびやかな鯉が何本も並び、PTA広報部の保護者たちが写真を撮っていた。指定された場所につくと、3年1組の子どもたちは急に、いつになく静かになった。そして、発表の時間が近づいても、ストッキングも眼帯も風呂敷も取り出さない。私はひとこと声をかけようと思ったが、結局集会終了まで黙っていた。「せっかく持ってきたのに、どうして変装しなかったの？歌の声もずいぶん小さかったし」。教室に戻りながら数人に向かって声をかけると、いつも陽気な慶次だけが、「だってえ、ちよつとなあ……」と小さく答えた。そのとき私は、正ちゃんが、紙筒を教室に置き「忘れた」のではないことにやっと思いついた。

1日付けの学級通信『フォーラム』で匿名の電話の件を書いた翌日、3年1組の保護者たちから私には手紙や電話、連絡帳などで励ましの言葉が寄せられていた。心強かった。匿名の電話の主も校長室には行かなかつたようである。しかし、おもちゃの件についてはその後も度々子どもたちと話し合うことになっていった。例えばある日の班ごとの話し合いの結果は次の通りである。子どもたちのメモをそのまま書いてみると、1班…3・1に入るときはロック（注…ノック）しろ。2班…ミニ四くやゲームボーイとかはやめて、マンガやめだたないものにする。3班…カードとかねり消しだけにする。4班…みえないはこ（ダンボール）の中に入れておく…、6班など、凶入りで隠し方を示してあった。私はできれば持つてこないでほしかったが、「自分たちで決めたことは自分たちで守ってください」とだけ言った。すると、子どもたちは本当に、それぞれが自分の言ったことは自分できちんと守った。2班と3班の子はミニ四駆とゲームボーイは持つてこなくなった。4班の子は段ボールを持ってそこにおもちゃをしまった。6班の子はロッカーに黒い色画用紙を張ってミニ四駆を隠した。そして1班の子は、自分たちが教室に入るときもドンドンと戸を叩いていた。

私は内心ハラハラしながらも子どもたちの行動には感心するばかりなので、立て続けに『フォーラム』を出した。そのタイトルはこんなふうである。「どっしょう その2」（5／

7）、「100%は望まない」（5／10）、「危ないことほど教えない」（5／15）、「どっちが悪い？」（5／16）

「危ないことほど教えない」という『フォーラム』を出した直後の職員会議では、小沢教頭から、「手をこまねいているだけの教員であってはならない」という厳しい口調での「訓示」があったが、私は自分の名をあげられたわけではないので、ただ黙っていた。彼は、校庭での私の体育授業を見ていたようである。

■「組織なのだから……」

一方、森校長は、私にハラハラし始めたようである。

私はこんなこともしていた。この学校では朝礼などの後の、教室への戻り方も実に整然としている。行進曲に合わせ、決められた順番に決められた経路を通過して教室に入るのである。人数が多いので、入り口などで混み合わないような配慮である。その順番などについては、毎年担当の教員から提案があり、異議が無ければ1年間守られるのであるが、私はうっかり自分のクラスの入り方を確認せずにいた。例年どおりはずであり多忙でもあったから。しかし、いざ入る時になって不都合に気づいた。正面玄関の前に並んでいる3年1組の子どもたちの教室は、玄関に向かってすぐ右にあるにもかかわらず、玄関左側の細い通路を通過して狭い北側入り口から教室に向かわなくてはならない。しかも、左側に教室のある4

年生（3クラス）や3年2・3組が入った後にである。年度始めは誰でも忙しく、担当者もついうっかりしてしまったのだろう。2回目の朝礼から私は、2年生が入った後に続いて正面玄関から直接入るよう、子どもたちを誘導した。どのクラスにもまったく迷惑がかからないことなので、誰の「許可も得ず」。担当教員には「このようにします」とだけ言ったが、「朝の打ち合わせで先生方の承認を得てください」という彼の言葉は取り上げなかった。

この、「許可を得ず」には訳がある。この学校に赴任直後の職員会議で、私は恐る恐るこんなことを言ったことがあった。「上履き」を忘れた子は裸足（注：くつ下は可）で歩かなければならないというへきまりは、やめた方がいいのでは……」。この学校では「上履き」を週末に持ちかえって洗ってくることがなっているが、月曜日には持つてくるのを忘れて子が多い。「上履き」だけでなく体操着やときには給食当番の白衣、習字道具なども持つてくるため、月曜日の朝は、「所帯道具一式」を抱えた「ホームレス状態」の子どもたちをよく目にする。それで満員電車に乗ってくるわけであるから、当人はもちろん、周囲の大人にとっても迷惑な……。話がそれてしまいそうだが、つまり、「上履き」を忘れることは、物理的にもやむを得ないように思うのである。しかしその場合、学校では教室に入るまでは「土足」でよいが、それは教室の入り口に脱いでおくというへきまりになっているのである。

月曜日の廊下には、所々に子どもたちの「土足」がきちんと並んで置かれている。「土足」とはいっても、靴の底の汚れは、「上履き」となら変わりはないのだが。

この私の発言をきっかけに、教員間に「上履き論争」が起こった。毎回職員会議で取り上げられ、時には午後の6時過ぎまで話し合われたこともあった。しかし、結局そのへきまりは、いまだ存続。「しつけ」にペナルティは意味が無いこと、都会で生活する子に「上履き」の必要性は理解させにくいことなどがそのときの私の提案理由であったが、校内では、「何でも大目に見てしまうことがいけない子をつくってしまう」という意見の方が多かった。そしてやがて、この私自身も、そう思い始めるようになっていった。去年の秋までは。しかし今ここで問題にしたいのは、その論争のことではない。自分のクラスのことについていちいち同僚の「承認」や管理職の「許可」を得ようとすると、まず時間的に同僚や管理職に迷惑をかけることになるということである。私が教室への入り方を「黙って」変えてしまった第一の理由がそれである。私はその後ずっと、「組織なのだから」という声を耳にすることになるが、組織における個人の在り方、裁量範囲、さらには「学校」という組織そのものへの捉え方が、私と私以外の学校関係者の間ではコミュニケーション不能なほどに隔たっていた。しかし、それはやむを得ない。彼らの判断基準は常に「過去」と「大人」にあるが、私のそれは「未来」と「子

ども」にあるのだから。それにしても、私の方こそ「組織なのだから」と言いたいのであるが……。

5月20日の朝礼ではこんなことが起こった。校庭に出ると、3年1組の列は、なぜか少し短い。しばらくすると、学年主任に連れられ、私のクラスの子どもたち7人が、ぞろぞろ不満気な顔で玄関から出てきた。校舎向きに立っていた学年主任には、教室の窓ごしにチラチラ動く子どもたちの姿が見えたようであった。私は、笑顔で7人を迎えた。そして教室に戻ってから事情を聞いた。「だって、金魚の水を取り替えるほうが大事と思ったから」「(学校に)来るのが遅れちゃったから、教室で待っているほうがいいと思っただけ」「僕たちは、ミニ四駆で遊びたかったから」

私はもちろん、注意などできる筋合いではないが、このことをどう思うか全員に聞いた。そして、当の7人からは、「ほかのクラスの先生は、よく分からないのに怒らないでほしい」「次からはもっと早く学校に来ます。そして、なるべくなら朝礼に出ます」「うーん、ミニ四駆は、がまんする。朝礼のときは」。

私はとりあえずほっと胸をなで下ろした。

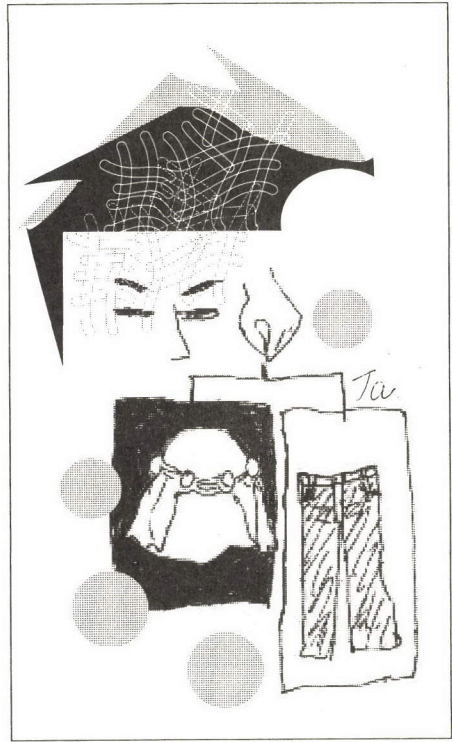
3年1組に限らず学校ではよく子ども同士の様々なトラブルが発生する。狭い場所に大勢の子がいるのでケガもよくある。しかし、20日の3年1組ではそれらが、偶然か必然か、重なつた。私はその状況と子どもたちの解決の様子を「大変

な1日」というタイトルで『フォーラム』に載せた。ともかく、トラブルや少しのケガには驚かない私も、毎回毎回の子どもたちの事後処理の見事さには、目を見張るのである。例えば4時間目の体育ではこんなことがあった。私は、勢いがついて真つ逆さまに跳び箱から落ちたホッチャんの腕が、一瞬ぐにやりと曲がったのを目の当たりにしてしまったのである。呆然とする私を尻目に、子どもたちはまずホッチャんをそっとマットに寝かせた。そして気を取り直した私が教頭や病院に連絡に走る間、オーちゃんか湿布用のスプレーをかけて手当てをしていた。養護教諭不在の保健室から持ち出してきたのである。その上、なんと、絶体絶命と思えたホッチャんの腕は、軽いねんざだけでした。子どもたちの体の柔軟なこと！

私はそんな驚きや喜びを、「うちの子は幼すぎて」などとすぐに心配する保護者たちと共有したかった。

各教科における子どもたちの能力の発揮ぶりも、一つ一つ書くときりが無いほどであった。一例を挙げれば、コンパスを忘れ続け、しかも「貸して」とは言えない荒田さまは、算数のテストの際、苦し紛れに鉛筆をテープで三角定規にとめ、コンパスの代用品を作ってしまった。それは、円の大きさが自在に調節でき、ミリ単位まで正確にかける見事なコンパスであった。(つづく／文中登場人物すべて仮名)

(らい・ようこ／主婦・元小学校教員)



終幕 (19)

〈アジアを着る 5〉

水田宗子

南カリフォルニア大学で教えていたころの大学院生だったBはアルジェリアの出身で、マンガ家を目指していた。というよりは、すでにかかなりの数の作品をいくつかの雑誌に発表していた。彼は自分の作品がニューヨーク・タイムスやロスアンジェルス・タイムスなどに載らないのが不満で、彼によれば、そういう大新聞が自分の作品を載せないのは、それが反イスラエル色の濃い政治マンガだということ、マンガの人物の民族や国籍が一目瞭然に描かれているからだ、という。政治性と民族性、この二つがなければマンガの意味はないのに、それを嫌う新聞はマンガが何であるかをわかっていないのだ、というのが彼の持論だった。

たしかに彼の作品の中の人物は、どれもその肌の色と服によって、国籍も民族もすぐにわかるように描かれている。私も、そこに何らかの違和感を持たなかったわけではない。例えば、日本人はいつも低い背丈、平べったい顔、細い目というステレオタイプ化された身体や顔の特徴と、サムライ装束やキモ

ノらしきもので表現される。それに異議申し立てしたいと思ったこともあるのだが、彼には熱烈恋愛中の日本人のガールフレンドがいて、彼女は背が高く、目鼻立ちがはっきりしていて、いつもジーンズとTシャツを着ているから、彼が日本人に無知なわけではなく、ただ民族性を明確にするためにわざとこのような定型を使っているのだと反論されることは明らかだった。肌の色と服は、今でも立派に機能する民族性のメタフォアなのに感心しているほかないのである。

そのBは、植民地時代にただ一人、フランスのアカデミー会員に推挙されたという、アルジェリアの著名な科学者の息子だった。父親は決してどんな場合にも洋服を着ようとせず、アラブの衣服で通しただけではなく、息子たちにもそれを着るように強要したという。Bはフランスの学校でも、アルジェリアの若者たちの間でも、それがたまたまなく恥ずかしかったり、面倒だったりと話した。

Bは、ガールフレンドと同様、いつもジーンズとTシャツ姿で、アラブ語なまりもフランス語なまりもない流ちょうな英語で話していたから、私には、彼のマンガ登場人物の服装に頼った民族性の表現が、なおのこと幼稚でこっけいに思えた。それと同時に、西欧的教養を身に付けた彼が、あの白い木綿の長いシャツに風をはらませ、長い足を幅の広い緩やかなパンツにぐるんで、さつそうとキャンパスを歩いていたら、誰もが即座に彼のアラブ性を、その引き締まった表情や逞しい身体に見出しただろうに、といささか残念にも思ったものである。

Bはその過激なナシヨナリズムにもかかわらず、日常生活での人つき合いでは、無口なやさしい人物で、子供好き、動物好き、旅行好きで好奇心いっぱい、ひょうひょうとした若者なのだが、私の頭の中でその彼にアラブ服を着せると、たちまち攻撃的で行動的、激情的な青年、自分の民族の女や子供ののためにはいかなる敵にも、論理や弁舌に頼るのではなく、力で、暴力を辞せず果敢に挑む、アラブの男の姿がほうふつとしてくるのだった。すると、彼の日常の国籍不明のTシャツとジーンズこそ、内面を隠す衣装のような気がしてくる。

私のインド人の友人には、アメリカですっかりサリーを脱ぎ、アメリカ人と同じような服装で生活し

ている人、その反対に、サリーなどのインドの伝統的な服しか着ない人、そしてTPOによって両方を着分けている人、たちがいる。どれもその人の自由なのだが、インド人なのに全くサリーを着ない人に、私が何となく違和感を感じてしまうのはなぜだろうか。しかし、それは彼女にとっては迷惑な話で、彼女はサリーを脱いだからといってインド人をやめたわけでも、インド人である内面を隠すために洋服を着ているわけでもないだろう。若い彼女は、服によるアイデンティティの問題など、露ほども意識していないかもしれない。

しかし、サリーを決して脱がないもう一人の友人は、アメリカの大学で職を得て教え始めたとき、学部長に呼ばれて、「もうサリーを脱いでもいいのではないか」と、半ば命令的に言われたのだそうである。そして、それが彼女がアメリカでの長い教員生活を通して、サリーを着続けた理由になったのかもしれない。学部長にとつて、サリーを着ている彼女は、いつまでも自分たちとは違った人間、自分たちと同じ仲間になることを拒んでいる他者であることを意識させられ、脅威を感じる存在に思えたのだろうか。

Bのマンガの作品の人物の肌の色と服による民族描写を笑いながら、生身のB自身の日常的存在にアラブ人としての民族性の表象としての服装を求めるのは、矛盾しているばかりか、それを「オリエンタリズム」というのだろうか、Bは、そのオリエンタリズムを逆に武器にして民族的な政治マンガを描き、その戦略を理解しないアメリカの新聞にいらだち、アメリカのジャーナリズムの「ポリティカル・コレクトネス(PC)」の欺瞞性に怒っていたのだ。

私も、タイなどのアジアの国に行くと、アジアのあの素敵な布を纏うのではなく、ジーンズやTシャツや、西欧のブランドまがいの服を着ている女性に出会うと、がっかりしてしまう。アジアの人たちに、アジア人らしいイメージを求めるのは(特にその服で)、オリエンタリズムそのものだが、それは私が他者としてアジア人を眺めているからで、自分のことになれば、日本人としての私は、着物を着ない理由を正当化しているばかりか、もちろん、着物を着なくても立派に日本人だと思っているのである。

(みずた・のりこ／日米文学比較・フェミニズム文学批評)

が整理され、展望が見つげ出されたらすばらしいのですが、こういうことは、人任せにはできないことなのだから、それぞれに何か発見があればいいなと思います。必ずあると私は、思います。

分科会も盛りだくさん。頭を使い、体を使い、話をしたり、表現したり、考えたり、自分に合ったテーマややり方を探して参加して下さい。

お昼のお弁当は、女たちのワーカーズ「赤かぶ弁当」を用意します。無農薬野菜、無添加調味料を使って調理したお弁当を味わって下さい。

Weの伝統である「子ども活動」では、“東京”を存分に楽しめます。Weは、子どもたちを参加者として考え、活動を計画しています。子どもだって親が楽しんでいる時にお守りされているだけなんてつまりません。

みなさんのペースに合わせて参加して下さい。分科会に出でもいいし、Weならでは？のお昼寝部屋（和室）も用意してあります。Weフォーラムの長い歴史の中で「敬老活動」を作ろうなどという声もちらほら（笑）。

それにしても、20回目のフォーラムはすごい!!と自画自賛。

私は、2人目の子どもが生まれ、子育てで悶々としていた時に、数行の案内文に惹かれ、1人で出かけたのが、第1回となる鳩ノ巣の合宿でした。永畑道子さんの話に涙したのを覚えています。それから所々欠けたけれど16回参加しています。4回目から実行委員としてもかかわり、創る楽しさも味わっています。私にとって、フォーラムの魅力は、出会いの楽しさです。We誌に登場する人々とも知り合えるし、有名人(?)にも会える。参加者にはやはり読者が多いから、共通の話題もあるし、初対面の方とも打ち解けられる気楽さがあります。人とのつながりだけでなく、フォーラムの内容も多方面にわたり、時代に合ったテーマもあり、これまた興味深いのです。私は中学校の教員で、生徒たちに年を聞かれたら「東京オリンピックのときに中学1年生だった」と答えています。当然彼らは東京オリンピックがいつだったか知らないから「ずるいよ」と言われています。今年誕生日を迎え、めでたく50歳になりました。木村栄さんの連載を感情移入して読んでいます。その私の人生に大きく占めるWeとはいったい何なのだろう、今年の出会いで何か見つかるのでしょうか。どっぷり浸りすぎて冷静に見れないので、えこひいきばかりです。フォーラムは、楽しくておもしろいのです。

お友だちを誘って、ぜひご参加下さい。

最後に、We誌を出しているフェミックスは、7周年を迎えます。時代を先取りする特集、人材豊富な連載を掲げるWe誌を編み出すフェミックスの女性陣。フォーラムの成功とフェミックスと「くらしと教育をつなぐWe」誌の発展を祈って!!

いろいろなテーマで
今年もやります。
おいでよ！
Weフォーラム2001
inTokyo

7月
28日(土)
29日(日)
開催!!

ワクワク!
ドキドキ!
ハラハラ!
いろいろの
2日間

Weの会 磯部幸江

20回目のWeフォーラム。今年は、東京渋谷（表参道）にて。1泊2日の日程ではありますが、内容は盛りだくさん。Weの会とフェミックスで実行委員会を作り、楽しく中味の濃いフォーラムの企画となりました。分身の術で全部の分科会に出たいと、いつも思うけれど、今年も計画の段階で話を聞いてますそう思っています。

今年のテーマは、たーくさん。実行委員のそれぞれにいろいろな想いがあり、抱える問題意識も関心も異なり、社会の動きも多様だし、何度も話し合いを持って、絞れ切れない。だったら、全部並べてしまおうということになりました。……IモードWeモード/つながり・こんがらがり・きれよう/道に迷

うための地図になりたい/居場所考/いつのまにか

元気になる場所/家族を

開く/自己決

定を支える

とは?/自己尊重/多

様性・想像

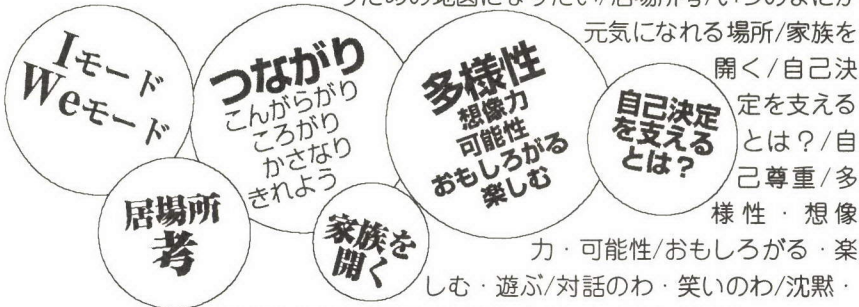
力・可能性/おもしろがる・楽

しむ・遊ぶ/対話のわ・笑いのわ/沈黙・

孤独/周・関係性・距離/市民・社会・共同性・NPO……

どれか自分にぴったりのものがありますか。もちろん、あなたのテーマを付け加えて参加すれば、すばらしい出会いがありますよ。

全体会は、Part1～Part2と二つつながります。「働くこと」「働き方」……当り前にかねていきたい行為なのに、想いがかなわないのはなぜだろう。We誌にも登場するパネラーたちの話が楽しみです。視野が広がり、問題点



神奈川 田中勢津子

こんにちは。今月も後ろから読んでいます。水田さんの文にある「布」について思うこと。着るものを通してナシヨナリズムを考える。うんうんとうなづく一方で、和服は自分の身体に布を合わせる、自分本位の衣類だなあと思いました。先日、日本民藝館でシルクロードの「布」の展示を見てきました。丹念に刺された刺繍、気の遠くなるほど細かいその手仕事。寒さから身を守るように、子供の成長を祈るように、願いを込めて作られたのだろうなあ、と、驚きとともに、私の暮らしはなんてお手軽なものなだろうと思いました。

また、どっぷりと貨幣経済の中にいることにも改めて気づきました。どんなふうに住生活したいか、その生活にはどのくらいのお金が必要なのか、そこから、お金の稼ぎ方を考えると良いのだろうと思うし、生活の変化に合わせて、稼ぎ方も緩やかに

変化できると良いのと思いました。

Weを廃刊にしないために、読者が一人、新たな読者を開拓しませんか？

東京 重川治樹

昨年「男女共同参画と日の丸フェミニズム」の催しに参加した。なかなかの盛況で見覚えのない顔ぶれ、若い女性が多かったので、Weの部数も増えていると思っていた。ところが、なんとその逆で、定期購読者が千部を切っていると聞いて本当に驚いた。九年前のWeの再スタート時の読者の志は一体どこに行ってしまったのだろうか。しかし経営がこれだけ厳しいのに誌面はきわめて快調だ。堀田碧さんのブラックフェミニズム、竹信三恵子さんのアンペイドワーク、木村民子さんの議会報告などと並べただけで、時代の核心に切り込む意気込みが伝わってくる。日本の急速な反動化・右傾化の中で、いわゆる文化人や教育者、巨大マス

メディアの多くが迎合したり沈黙しているときに、吹けば飛ぶような少数のWeが果敢に反撃の論陣を張っているのは特筆すべきことだと思う。私は併読しているいくつかの良心的な雑誌の中で、最近のWeには特に高い点をつけている。その故に、新聞のコラムで紹介したり、講演にいく先々でWeとフェミックスの宣伝をし、友人の女性たちにも、読者になってもらうのはもちろんのこと、執筆者になったり、催し物の担い手になってもらったりという自分なりの応援をしている。

今年がWeの正念場と聞く。読者（特に再スタート時から志を同じくしてきた人たち）に提案したい。一人でもいいから、あなたが新たな読者を勧誘しませんか？

（重川さんは長年の読者で、確信犯的父子家庭の体験を書いた「シングル・ペアレント」の著者で新聞記者です。編集部）

●互いに迷惑をかけあうことを奨励する「スローワーク」路線とアメリカ型ポジティブ・自己決定路線が共存してへんな特集だと思われた方もいるでしょう。でも、男の働きかたを変える、仕事と私生活のバランスをとって楽になる働き方をめざす点では方向は同じ（ここをテーマにして、Weフォーラム全体会①を進めます。パネラーは竹信三恵子さん）。世の中にはハイテンションでアグレッシブに自己実現したい人も、のんびりゆっくり生きる人もいる、同じ人が時期によって変わるのもよし、自分の生き方、働き方をそのときどきでつくっていくればよいなと思っっています。日本の企業文化はその意味ではどっちつかずで完全に硬直化。そのなかで問題を立てると、仕事が大事か家庭が大事かとか、不毛な二項対立の論議に必ずまはまるのはなぜ？（特集インタビューの二神能基さんは、Weフォーラム全体会②のパネラーの一人。お楽しみに）

木村栄さんの「わがまま」を読んで、ええっ！と驚いた。知らなかった、話が

飛ぶのも「わがまま」だとは。私はフェミックスの他のメンバーに比べれば、全然わがままの範疇に入らないと思っただのに。そうか、頭の中がきちんと整理されている河村さんがなんで私のことを「頭がいい」と言うのか、これで謎が解けた。「思考が飛ぶ」のを回転がいいのと勘違いしていたのね。ぐしゃぐしゃのまま、気分であつちに飛んだりこつちに飛んだりするだけの話なのに。そういえば、自分ではすぐ不安になる小心者だと思っっているのに、ときたま大物？だと誤解されるのは、右から左へすぐ忘れるので絶対に鬱にはならないせいで、いつでも後先お構いなしに立つても眠られるという特技があるせいです。ものは言いよう、何でも良いふうに見えるでしょう。

「現代を生きる女性学」次回6月9日（土）のテーマは「フェミニズムの可能性」。資料あり。事前にご予約下さい。（稲邑）

●フェミックスで一番わがままなのは私だと思われているんじゃないかと思いますが、木村栄さんの原稿を読んで違うことが判明しました。話が飛ぶのは頭がいいせいでは

なくて、わがままだったんですね。

さて、そういうわがまま人間になれるように（ただし、周りが迷惑しないような）、自己主張トレーニング（AT）講座が7月3日から始まりますが（募集中です）、ATの個人教授も始めることにしました。自己主張できない原因を一緒に考えながら、自己主張の仕方でもトレーニングするという、一対一のカウンセリングつきATです。電話相談でもATの個人教授をしますので、グループワークにはなかなか出られないけど、ATを学びたいという方はぜひご利用ください。

連休前に風邪をひいて、それからからだが鈍ったまま、気分も鬱状態が続いているので、これはいけないと思ひ、気功の片山洋次郎さんのお世話になることにした。片山さんの「氣ウォッチング」（エディタースクール出版部）を読み始めたら難しくてよく分からないけど、音楽と氣の話に、そういえば、一カ月近く、音楽も聴いてないし、サルサもやってない。映画も観てない。山にも行ってない。これじゃあおかしくなるはずだ。（河村）

●と言ったらその足で今晚映画に行っ

しまった河村さん。月末には立山黒部アルペンルートに行く！とガイドブックを買ってきて、富山出身の私にアドバイスを求めながらすぐに宿の予約をしていた。遊ぶエネルギー全開って感じ、もう復調ですね。河村さんの楽しむ姿勢を見習って、私もずいぶん遊ぶことに罪悪感がなくなりました。A.Tの師匠は遊びの師匠（連れ）でもある。保育園のお迎えがある頃はいつも時間に追われて、「すみません」「ありがとう」ばかり繰り返して疲れたけど、ずいぶん開き直ったので（子どもも成長したし）、「週に一度は自分の楽しみのために時間を使うことにする」と宣言して始めたアフリカダンスもなんとか続けている（お金を捻出するのにタバコとビールも控えて一挙両得）。季候も良くなってきたので、プランターの花や野菜を植え替えたり、思い立って海に行ったり、といってもマリンスポーツなぞするわけもなく、磯遊びしてお弁当食べてあとは昼寝してただけど……年収三〇〇万に届かない母子家庭の私だが、お金をかけなくても、心も身体も楽しむことはいっぱいあって、結構豊かな生活して

るな！と思う。観たい映画も何本かたまたまつるし、やるのがいっぱいなのだ。

テレビ子だった私は時間のない今も深夜にテレビを観る。NHKは深夜に特集番組を再放送していて、先日は、電機メーカーが工場再生をかけたベルトコンベヤーを切る場面に出くわした。人件費の高い日本ではラインの大量生産では採算も取れず、ロボット導入すら多様化した移り気な消費者ニーズに即座に対応するのに逆効果で、過剰な在庫が首を締められているという。「再建人」と呼ばれる人の編み出した最良の方法は、一人で一つの製品を最初から最後まで作る「屋台方式」と呼ばれるもの。回り回って一番効果的な方法が、結局は人の能力や意欲を最大限生かすこと、というのが印象的だった。

あつ、そうそう、私は無愛想なだけで、（世間一般ではいざ知らず）フェミックスの中では一番わがままじゃないと思っていたが、みんな認識が違うのに爆笑。稲邑さんのぶつとんだ話についていける私は、頭がいいってこと？同じぐらいぶつとんでる（わがまま）ってこと？（中村）

◆読者拡大にみなさんのご協力お願いします

くらしと教育をつなぐWe

2001年6月号（93号/vol.10 No.3）2001年6月1日発行

定価……680円（本体価格648円＋税）

（年間購読料7500円/送料共）

発行……femix・フェミックス

〒154-0001 東京都世田谷区池尻3-2-3-703

tel & fax 03-3424-3603

E-mail: femix@mail2.alpha-net.ne.jp

http://www3.alpha-net.ne.jp/users/femix/

富士銀行 池尻大橋支店 普1501277

郵便振替 00130-7-754314（有）フェミックス

編集……稲邑恭子・中村泰子

装幀・イラスト……川口民子

印刷……（有）イー・エム・ピー

●本誌掲載記事の無断複製、複製をお断りします。

ます。チラシ見本誌等お送りします。Weや単行本を販売（紹介）できる集會等の情報をお寄せください。図書館等への購入希望もよろしくお願いします。

◆いよいよ夏のフォーラムの季節です。パンフレットを挟み込みましたので、お早めに（ホテルは数に限りがあり先着順）お申し込み下さい。当日参加もできますので、友人・知人お誘い合わせの上、ぜひ！参加して下さい。（編集室）

不登校新聞

<http://www.futoko.org>

Phone 03-5360-1231

月2回発行ブランケット版6P

理屈じゃないんだよね



見本紙、無料送付します

全国不登校新聞社

購読ご希望の方は、編集部に直接お申し込み下さい。電話、ファックス、E-mail、あるいは郵便振替で○号から購読希望と明記して年間購読料7500円をお振り込み下さい。

- 定価 680円 (本体価格648円+税)
- 年間購読料 7500円 (10冊/送料共)
- 郵便振替00130-7-754314フェミックス

「くらしと教育をつなぐWe」は、もともと家庭科の男女共修の実現のためにスタートした月刊誌ですが、従来の家庭科の枠を超えて、女と男が対等に生きることができる社会の実現のために必要で、さまざまなテーマを取り上げ、特に教育現場において性教育やいじめ防止教育なども包括した「ジェンダーフリー教育」の実現と、「男女共同参画社会」実現のための具体的なノウハウを追求します。

■2001年度特集

4月号 「いじめ」に立ち向かう

5月号 ジェンダーの視点から「働くこと」を考えるⅡ

■連載

女が歳をとるといふこと 木村栄◇家事神話/女性の貧困のかけにあるもの
竹信三恵子◇新米議員のジェンダー議事録 木村民子◇乱読大魔王日記 冠野文◇ひげのおばさん子育て日記 中畝常雄・治子◇過去を振り返らない/先を考えない 松本一郎◇英語で女性問題を語るためのワンポイント・レッスン 吉原令子◇3年1組の12ヶ月 来陽子◇ジェンダーフリー大曼陀羅図鑑 蔦森樹◇終幕 水田宗子

■女と男の家庭科新時代

授業実践/風がかわる匂いがかわる◇新・オホーツクの潮風荒く 江口凡太郎◇熊本発・困ったときの一発ネタ◇曲がり角の家庭科 梶原公子◇食の歳時記 入江一恵・坂本 薫

◎バックナンバーも販売しています。バックナンバーのリストをご希望の方はお問い合わせください。

■Weの置いてある書店■

- 北海道 ● 旭川—こども富貴堂
- 東 京 ● 表参道—クレヨンハウス
- 東京ウィメンズプラザ内—バッチワーク
- 新宿2丁目—横索舎
- 西荻窪—ナワ・フラサード
- 大 阪 ● ウィメンズブックスストア松香堂
- 江坂—クレヨンハウス
- 広 島 ● 家族社

(書店でご注文の場合は「地方小出版流通センター取扱い」としてお申し込み下さい。)

くらしと教育をつなぐWe 読者募集

フェミックス tel & fax 03・3424・3603

〒154-0001 東京都世田谷区池尻3-2-3サンケイグランドハイツ703

<http://www3.alpha-net.ne.jp/users/femix/>

E-mail femix@mail2.alpha-net.ne.jp